MZK-MF300D

User's Manual

目次

第 1 章 安全上のご注意

1.1 本製品を安全にご利用いただくために

本製品のご利用に際して、以下の警告および注意をご覧いただき必ずお守りください。これらの事項が守られないとき、「**感電**」「**火災**」「**故障**」などが発生する場合があります。
これによって人が負傷されたり、死亡につながる 恐れがあります。また、万一「**発火**」「**発煙**」「**溶解**」などが発生した場合には速やかに本製品の利用を中止し、弊社サポートセンターへ連絡するようお願いいたします。

⚠警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が負傷されたり、死亡につながる恐れが想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が負傷されたり、物的損傷を引き起こす恐れが想定される内容を示しています。

⚠警告	
	電源は AC100V(50 ／ 60Hz)以外では絶対に使用しないでください。 本製品と本製品の定格電力ラベルに記載されている電圧・電流のものをお使いください。異なる電圧・電流でご使用すると発煙、感電、火災、または製品の誤作動や故障などの原因となります。
	必ず付属の専用 AC アダプタ(または電源ケーブル)を使用してください。 本製品付属以外の AC アダプタ(または電源ケーブル)の使用は発煙、感電、火災、または製品の誤作動や故障のなどの原因となります。
	AC アダプタ(または電源ケーブル)の取り扱いを守ってください。 AC アダプタ(または電源ケーブル)に加熱や無理な曲げ、引っ張ったりするなどといった行為はしないでください。発煙、感電、火災、または製品の誤作動や故障などの原因となります。また、AC アダプタ(または電源ケーブル)を抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
	動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。 範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
	本製品を分解、改造しないでください。 感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。また改造は法律で禁止されています。

強制指示	**コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは直ちに取り除いてください。** そのまま使用することで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
水濡禁止	**本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。** 本製品に液体がこぼれることで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
プラグを抜く	**煙が出たり、異臭がしたら直ちに使用を中止し、コンセントから電源プラグを抜いてください。** そのまま使用することで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
濡手禁止	**本製品を濡れた手で触れないでください。また事前に指輪、腕時計などの装身具を外しておいてください。** これらの状態で本製品に触れると感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
禁　止	**本製品を重ねて設置しないでください。** 本製品が加熱し、感電、火災、または本製品の誤作動、故障などの原因となります。
触手禁止	**雷のときは本製品や接続されているケーブル等に触れないでください。** 落雷による感電の原因になります。
強制指示	**本製品は一般家庭や小規模事業所におけるブロードバンド環境下での利用を前提にしています。** 本製品は、物理的･論理的に規模の大きなネットワークや、一般的ではない環境または目的で本製品を使用した場合、正常に動作しない可能性があります。
禁　止	**金融機器、医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。**

⚠注意	
	本製品を次のような場所での使用や保管はしないでください。 ● 直射日光の当たる場所 ● 暖房器具の近くなどの高温になる場所 ● 温度変化の激しい場所 ● 湿気やほこりの多い場所 ● 振動の多い場所や不安定な場所 ● 静電気が多く発生する場所 ● 油煙や湯気があたる場所 ● 腐食性ガスの発生する場所 ● 壁の中などお手入れが不可能な場所 ● 強い磁気や電磁波が発生する装置が近くにある場所
	本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。 本製品の誤作動、故障などの原因となります。
	移動させるときは AC アダプタ（または電源ケーブル）を外してください。 必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してください。
	お手入れの際は以下の内容に注意してください。 ● 電源プラグをコンセントから抜いてください。 ● シンナーやベンジン等の有機溶剤で本製品を拭かないでください。
	定期的にデータのバックアップを行ってください。 本製品のご利用にかかわらず、パソコンのデータのバックアップを定期的に取得してください。万一不測の事態が発生し、不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったときの回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。
	RJ-45 ポートのある製品は、以下の内容に注意してください。 RJ-45 ポートには電話線コネクタを差し込まないでください。本製品が損傷する場合があります。

■無線製品に関して

本製品を下記のような状況でご使用になるのはおやめください。

- 本製品を心臓ペースメーカーや補聴器など医療機器の近くや医療機関の中でのご使用はおやめください。電磁障害を及ぼし生命の危険があります。
- 本製品を交通機関内、特に航空機の中でのご使用はおやめください。機内での電子機器や無線機器の利用が禁止されており、航空機の装置などへ影響を与えて事故の原因になる恐れがあります。
- 本製品を電子レンジの近くでのご使用はおやめください。電子レンジをご使用のとき、電磁波の影響によって、無線通信が妨害される恐れがあります。

■電波に関して

本製品の無線 LAN の周波数帯は、医療機器や電子レンジなどの産業・科学機器、工場の生産ラインなどで使用される移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局と重複しているため、電波の干渉による無線通信の障害が発生する恐れがあります。

- 本製品のご利用の前に、干渉範囲内に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品使用中に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波の干渉が発生したときは、速やかに周波数を変更するか使用を中止してください。
- その他、本製品から移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波干渉など、何かお困りのことが発生したときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
- 本製品の電波の種類と干渉距離について

2.4 DS/OF 4
■■■

2.4 　:2.4GHz 帯を使用する無線設備を表します。

DSOF 　:DS-SS 方式および OFDM 方式を表します。

4 　:想定される干渉距離が 40m 以下を表します。

■ ■ ■ :全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」、「アマチュア局」帯域の回避が可能なことを表します。

■ご利用上の注意

- 接続においては、IEEE802.11n（2.4GHz 帯）または IEEE802.11g、IEEE802.11b 無線 LAN その他の無線機器の周囲、電子レンジなど電波を発する機器の周囲、障害物の多い場所、その他電波状態の悪い環境で使用した場合に接続が頻繁に途切れたり、通信速度が極端に低下したり、エラーが発生したりする可能性があります。
- IEEE802.11n(5GHz)および IEEE802.11a 対応製品に関して通信時利用時に 5GHz 帯域の電波を使用しております。
  5.2GHz、5.3GHz 帯域の電波の屋外での使用は電波法により禁じられています。
- 本書内に記載されている無線 LAN 規格における数値は理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
- 本製品はすべての無線 LAN 機器との接続動作を確認したものではありません。
- 弊社は、無線機器によるデータ通信時に発生したデータおよび情報の漏洩につき、一切の責任を負いません。
- Bluetooth と無線 LAN は同じ 2.4GHz 帯の無線周波数を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。

■無線 LAN におけるセキュリティに関するご注意

お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、ID やパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。ただし、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があり、また無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。セキュリティ対策を施さず、あるいは無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

弊社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

1.2 おことわり

■ご注意

- 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第三者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 通信内容や保持情報の漏洩、改ざん、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本製品のパッケージ等に記載されている性能値（スループット）は、当社試験環境下での参考測定値であり、お客様環境下での性能を保証するものではありません。また、バージョンアップ等により予告無く性能が上下することがあります。
- ハードウェア、ソフトウェア（ファームウェア）、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品内部のソフトウェア（ファームウェア）更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関しての保証は一切ありません。
- 一般的に、インターネットなどの公衆網の利用に際しては、通信事業者との契約が必要になります。
- 通信事業者によっては公衆網に接続可能な端末台数を制限、あるいは台数に応じた料金を設定している場合がありますので、通信事業者との契約内容をご確認ください。
- 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
- 本製品は日本の国内法（電気用品安全法・電波法等）のもとで利用可能な製品であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。
- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。

■著作権等

- ユーザーズ・マニュアルに関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社に帰属します。ユーザーズ・マニュアルの記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
- ユーザーズ・マニュアルの記述に関する、不明な点や誤りなどございましたら、弊社までご連絡ください。
- ユーザーズ・マニュアルの記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

■電波に関するご注意

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信妨害を起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

■RoHS 対応

生産から廃棄処分にいたる製品のライフサイクルにおいて、人の健康や環境への負荷を最小限に抑えることを目的とし、プラネックスコミュニケーションズでは、EU（ 欧州連合） の RoHS 指令準拠を始めとし、環境汚染物質の削減を積極的に進めております。

第 2 章 はじめに

2.1 本製品の特長

✧ **2.4GHz 帯 & 5GHz 帯同時利用対応デュアルバンド Wi-Fi ルータ**

小型筐体（約 76(W)x29(H)x66(D)mm）ながら、送受信に 2 本(2T2R)のアンテナを内蔵し、2.4GHz 帯＆5GHz 帯のデュアルバンド Wi-Fi に対応。ポケットルータでは、業界初の「2.4GHz＆5GHz コンカレント(独立動作)モード」を搭載。2.4GHz 帯だけでなく、干渉の少ない 5GHz 帯の同時使用に対応することで、様々なネットワーク機器を接続する際にも混信なくスムーズに通信を行うことが出来ます。

✧ **1 台 3 役！ゲーム･ケータイ･AV 家電をあらゆる環境でインターネットに接続**

ご利用のネットワーク環境を自動的に判別するオートモード（ルータ / アクセスポイント自動切り換え）を搭載。インターネットへの接続や Wi-Fi を簡単に利用することができます。 また、コンバータモードに切り替えて LAN 接続可能なハイビジョンテレビを簡単に無線化することができます。

Router
ルータモード
自宅でモデムに接続してワイヤレスでインターネットを楽しもう！

インターネット
モデム
MZK-MF300D
携帯ゲーム機
パソコン

ルータモードとアクセスポイントモードを自動認識
オートモードで、お使いのネットワーク環境を自動判断して、ルータモードとアクセスポイントモードを自動切換え。

Access Point
アクセスポイントモード
出張や旅先のホテルでWi-Fi接続！コンパクトだから持ち運びに便利。

客室のLANポート
MZK-MF300D
スマートフォン
パソコン

Converter
コンバータモード
テレビレコーダー、デジタル家電を無線化するなら邪魔にならないこのサイズ！

インターネット
モデム
無線LANルータ
MZK-MF300D
ハイビジョンTV
MZK-MF300D
HDDレコーダ

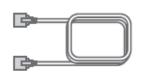
✧ **洗練されたデザイン　＜Designed by MID MILANO Design＞**

イタリアのデザイナーが手がけたボディーは、柔らかいフォルムと光沢のあるカラーで高級感が漂う洗練されたデザイン。リビングやデジタル家電の近くにおいても部屋全体の美観を損ないません。

2.2 同梱物

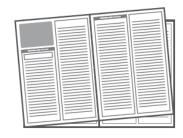
パッケージに次の付属品が含まれていることを確認してください。

☐ MZK-MF300D（本製品）

☐ LAN ケーブル

☐ AC アダプタ

☐ USB 電源ケーブル

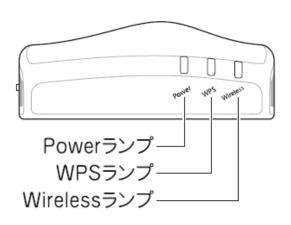
（FFP-PKR04D には含まれません）

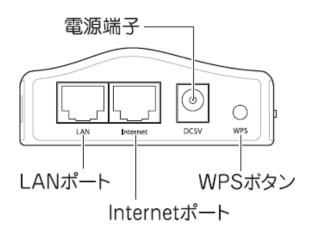
☐ ルータ・アクセスポイント設定ガイド
☐ 接続ガイド（パソコン／ゲーム機）
☐ コンバータ設定ガイド

☐ はじめにお読みください（保証書含む）

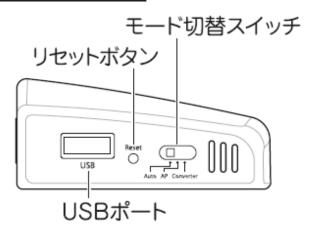
※パッケージ内容に破損または欠品があるときは、販売店または弊社までご連絡ください。

2.3 各部の名称とはたらき

本製品各部の名称について説明します。

本製品前面

名称	色	機能説明	
Power ランプ	緑	点灯	本製品の電源がオンの状態です。
		点滅	初期化を実行している状態です。
		消灯	本製品の電源がオフの状態です。
WPS ランプ	緑	点灯	WPS 機能が有効の状態です。
		点滅	WPS 接続を試みている状態です。
		消灯	WPS 機能が無効の状態です。
Wireless ランプ	緑	点滅	無線 LAN でデータを送受信している状態です。
		消灯	無線 LAN 機能が無効です。

本製品背面

名称	機能説明
LAN ポート	ご使用のローカルエリアネットワークと接続します。
Internet ポート	ご使用のインターネット回線に付属の LAN ケーブルで接続します。
電源端子	付属の AC アダプタを接続します。
WPS ボタン	WPS ボタンを 3 秒以上長押しすると、WPS（無線 LAN 簡単設定機能）接続が有効になります。 ※ 操作方法は、別紙「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」の「STEP 3」を参照してください。 ※ WPS 機能を使用すると、本製品の無線 LAN セキュリティの初期設定が書き換わる為、本紙記載の暗号化キーでは接続できません。1 台のパソコンで無線 LAN 接続にご使用ください。 ※ 複数台の機器を無線 LAN 接続する場合には、 手動にて「SSID：ap-pcG-●●●●●●」、または「SSID：ap-pcA-●●●●●●」、「暗号化キー：12345678」をそれぞれ設定してください。

本製品左側面

名称	機能説明	
Reset ボタン	本製品の設定情報を工場出荷時の状態に戻します。 （操作方法） 1. 本製品の電源がオンになっていることを確認します。 2. 本製品側面のリセットボタンを 5 秒以上長押しして、「Power」ランプが消灯→点滅したら、リセットボタンから離します。 3. しばらくそのままお待ちいただき、本製品が再起動　したら初期化の完了です。	
USB ポート	本製品では使用できません。	
モード切替スイッチ	Auto	Auto モードに切り替わります。 ※インターネット回線を自動判別します。
	AP	アクセスポイントモードに切り替わります。 ※上位ルータの IP アドレスを固定に設定しているときに使用します。 （本製品から下位のクライアントに IP アドレスを割り当てたいときなど） 通常は「Auto」で使用してください。
	Converter	コンバータモードに切り替わります。

2.4 工場出荷時の設定値

本製品の工場出荷時の設定内容は以下のとおりです。

名称	設定値	
ユーザ名（ログイン ID）	admin	
パスワード	password	
IP アドレス	ルータモード動作時　：　192.168.111.1 アクセスポイントモード動作時　：　XXX.XXX.XXX.250 コンバータモード動作時　：　XXX.XXX.XXX.249 ※「XXX」はお使いの環境に更新されます。	
ネットワーク名（SSID）	出荷時設定値 5GHz SSID 1 : ap-pcA-●●●●●●● SSID 2 : ap-tvA-●●●●●●● 2.4GHz SSID 1 : ap-pcG-●●●●●●● SSID 2 : ap-gameG-●●●●●●● ドメイン名 : mf.setup ユーザ名 : admin パスワード : password : xxx.xxx.xxx.250 : xxx.xxx.xxx.249 （メイン SSID の無線 LAN セキュリティ）	（マルチ SSID の無線 LAN セキュリティ）
暗号化キー	12345678	なし
認証方式	WPA2	－
暗号化方式	AES	－
キーフォーマット	パスフレーズ	－

※本製品背面のラベル内にある「SSID1」、「SSID2」をご確認ください。

※「●●●●●●」が製品ごとに異なります。

第 3 章　インターネットの設定

本製品をルータまたはアクセスポイントとして使用するときや、コンバータとして使用するときは、以下の設定ガイドを参照してください。

◆本製品を無線 LAN ルータやアクセスポイントとして使用する場合

付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」を参照し、インターネットの設定を行ってください。

◆本製品をコンバータとして使用する場合

付属の「コンバータ設定ガイド」を参照し、インターネットの設定を行ってください。

＜ポイント＞

お手元に「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」や「コンバータ設定ガイド」がないときは、以下のページからダウンロードしてください。

http://www.planex.co.jp/support/download/router/mzk-mf300d.shtml

第 4 章　ゲーム機／スマートフォンを接続する

本製品に、ゲーム機やスマートフォンを接続します。

◆ゲーム機を接続する場合

付属の「接続ガイド（パソコン／ゲーム編）」を参照し、設定を行ってください。

＜ポイント＞

お手元に「接続ガイド（パソコン／ゲーム編）」がないときは、以下のページからダウンロードしてください。

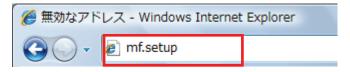
http://www.planex.co.jp/support/download/router/mzk-mf300d.shtml

第 5 章 本製品を使いこなす

5.1 設定画面の表示方法

ここでは、設定画面の表示方法を説明します。

1. WEB ブラウザを起動します。

2. アドレス欄に「mf.setup」と入力し、<Enter>を押します。

※ 「ルータモード」で動作しているときは、アドレス欄に 「192.168.111.1」と入力して、ログイン画面を表示することもできます。

※ 「アクセスポイントモード」で動作しているときは、アドレス欄に「192.168.1.250」と入力して、ログイン画面を表示するとこもできます。

※ 「コンバータモード」で動作しているときは、アドレス欄に「192.168.1.249」と入力して、ログイン画面を表示するとこもできます。

※ お使いの環境により、WEB ブラウザが起動するまで時間がかかることがあります。
そのときは起動するまでお待ちください。

※ ログイン画面が表示されずに、エラー画面が表示したり、検索ページに移行するときは、本製品の IP アドレスがお使いの環境に更新されています。次項の「本製品の IP アドレスを確認する」を参照してください。

3. ログイン画面が表示されますので、下記のユーザ名とパスワードを入力し、OK をクリックします。

(1)「ユーザ名」に半角英数で「admin」(エー・ディー・エム・アイ・エヌ)を入力します。

(2)「パスワード」に半角英数で「password」(ピー・エー・エス・エス・ダブリュ・オー・アール・ディー)を入力します。

(3)[OK]をクリックします。

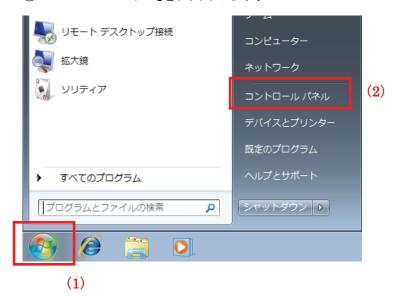
4. 本製品の WEB 設定画面のトップページが表示されます。

＜本製品の IP アドレスを確認する＞

お使いの環境に更新された本製品の IP アドレスを確認します。

■ Windows 7／Vista のとき

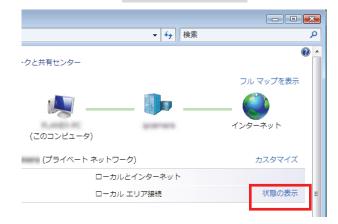
※手順では Windows 7 で説明していますが、Windows Vista も同じ手順となります。

1. ①「スタート」ボタンをクリックします。
   ②「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。

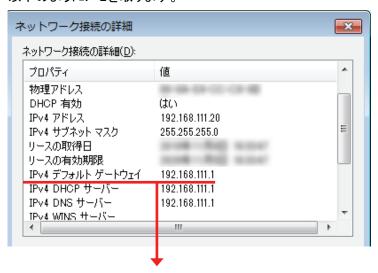
※Windows 7 でアイコン表示の場合や、Windows Vista でクラシック表示画面の場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. Windows 7 のとき

「ローカルエリア接続」をクリックします。

Windows Vista のとき

「状態の表示」をクリックします。

4. 「詳細」をクリックします。

5. ネットワーク接続の詳細画面に表示された「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」の IP アドレスを確認し、以下のようにメモを取ります。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、**「192.168.111.250」とメモに取ります。**

例）「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.250」となります。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、**「192.168.111.249」とメモに取ります。**

例）「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.249」となります。

6. WEB ブラウザを起動し、アドレス欄に手順 4 でメモした IP アドレスを入力して、<Enter>を押します。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

「5.1 設定画面の表示方法」の手順 3 に戻ります。

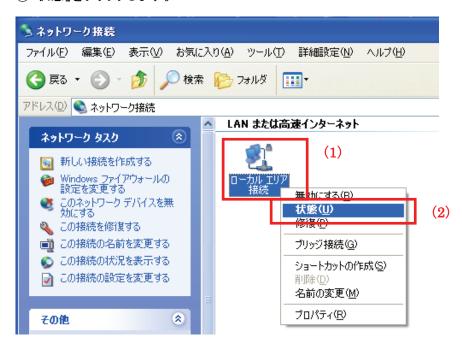
■ Windows XP のとき

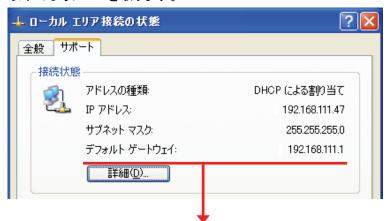
1. ①「スタート」ボタンをクリックします。
   ②「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

※クラシック表示のときは、「ネットワーク接続」をダブルクリックし、手順 4 に進みます。

3. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックをクリックします。

4. ①「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックします。
②「状態」をクリックします。

5. 「サポート」タブをクリックします。

6. ネットワーク接続の詳細画面に表示された「デフォルト ゲートウェイ」の IP アドレスを確認し、以下のようにメモを取ります。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、
「192.168.111.250」とメモに取ります。

例）「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.250」となります。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、
「192.168.111.249」とメモに取ります。

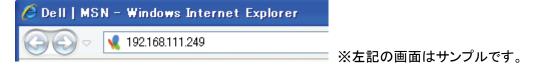
例）「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.249」となります。

7. WEB ブラウザを起動し、アドレス欄に手順 6 でメモした IP アドレスを入力して、<Enter>を押します。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

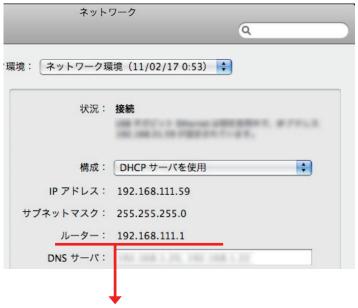
※左記の画面はサンプルです。

「5.1 設定画面の表示方法」の手順 3 に戻ります。

■ Mac OS X のとき

1. ①「アップルメニュー」をクリックします。
   ②「システム環境設定」をクリックします。

2. 「ネットワーク」をクリックします。

3. 画面左の「Ethernet...」をクリックします。
   ※Mac OS X 10.4 のときは、「表示」欄から「（内蔵）Ethernet」を選択し、「TCP/IP」タブをクリックします。

4. ネットワーク接続の詳細画面に表示された「ルータ」の IP アドレスを確認し、以下のようにメモを取ります。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「ルータ」が「192.168.111.1」のときは、**「192.168.111.250」とメモに取ります。**

例） 「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.250」となります。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「ルータ」が「192.168.111.1」のときは、**「192.168.111.249」とメモに取ります。**

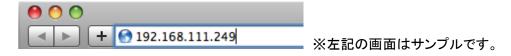
例） 「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.249」となります。

5. WEB ブラウザを起動し、アドレス欄に手順 4 でメモした IP アドレスを入力して、<Enter>を押します。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

「5.1 設定画面の表示方法」の手順 3 に戻ります。

5.2　無線 LAN セキュリティを変更する

ここでは、無線 LAN セキュリティの設定方法を説明します。
本製品は、携帯ゲーム機が簡単に接続出来る様に、暗号化がかけられていないアクセスポイントが設定されています。環境によっては大切なデータを傍受される恐れがありますので、お使いになる機器に合わせた暗号化の設定を行って下さい。

※別紙「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」にてご説明しているアクセスポイント「ap-pcA-●●●●●●」(5GHz：パソコン用)、「ap-pcG-●●●●●●」(2.4GHz：スマートフォン用)には、暗号化キーが初期設定されています。すでにパソコンやスマートフォンを接続したときはそのままご使用ください。

以下は、各機器の無線LANの暗号化対応表です。
例えば、本製品のゲーム機用アクセスポイント「ap-gameG-●●●●●●」に、DS LiteとWiiを接続する場合は、DS Liteが「WPA2」に対応していないため、**両機が対応している「WEP」を選んで設定を行います。**暗号化を設定する際は、以下の表より暗号化の対応内容を確認し、設定を行ってください。

暗号化の種類	パソコン		スマートフォン		ゲーム機					
	Windows	Mac OS X	iPhone/iPad	GALAXY Tab	DS Lite	DSi/DSi LL	3DS	Wii	PSP	PS3
WEP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
WPA2	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○

※「WEP」より「WPA2」の方がセキュリティは強固です。接続する機器が全て「WPA2」に対応しているときは、「WPA2」を選んで設定してください。

1.　(1)［無線 LAN］をクリックします。
　(2)［無線 LAN1 (5GHz)］をクリックしてください。
　　※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、［無線 LAN2 (2.4GHz)］をクリックしてください。
　　※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
　　※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　[セキュリティ]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[セキュリティ]をクリックしてください。

3.　暗号化(セキュリティ)の設定をします。

※ここで設定する設定値は、無線通信する機器(パソコンやゲーム機など)に設定するときに必要になります。メモに控えることをお勧めします。

(1) SSID を選びます。

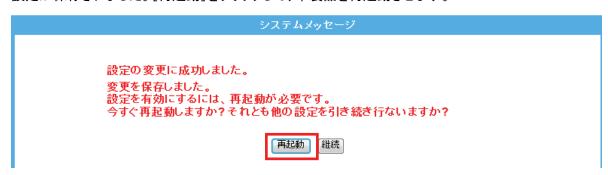
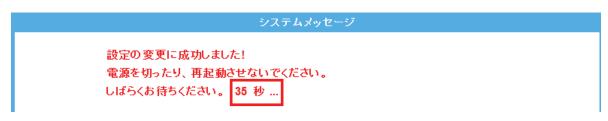
※ここでは「ap-pcA-●●●●●●」を選んでいます。

(2) 暗号化方式を選びます。

- 「WEP」を選択するときは、**【WEP で設定するとき】**(P35)をご参照ください。
- 「WPA/WPA2」を選択するときは、**【WPA/WPA2 で設定するとき】**(P36)をご参照ください。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
SSID の選択	暗号化を設定する SSID を選びます。 仮想 AP を設定しているときは、リストから該当する SSID を選びます。
暗号化方式	「無効」、「WEP」、「WPA」、「WPA2」、「WPA-Mixed」から選びます。

4.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

5.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

6.　設定画面に戻ります。。

画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

【WEP で設定するとき】

無線セキュリティ設定 - 無線LAN1

無線セキュリティの設定を行います。暗号化キーを用いたWEPまたはWPAを設定し、無線LANネットワークへの不正アクセスを防止できます。

セキュリティ設定

SSIDの選択 ap-pcA-●●●●●●

(6) 適用 リセット

暗号化方式 (1) WEP

認証方式 (2) ◎オープン ◎共有 ◉自動

キー長 (3) 64-bit

キーフォーマット (4) 16進数 (10 桁)

暗号キー (5) **********

(1) 暗号化方式より「WEP」を選びます。

(2) 認証方式より「自動」を選びます。

(3) キー長より「64-bit」または「128-bit」を選びます。

(4) キーフォーマットより「16 進数」または「ASCII」を選びます。

※「キー長」にて「64-bit」を選んだとき

→キーフォーマットが「ASCII(5 文字)」、「16 進数(10 桁)」と表示されます。

※「キー長」にて「128-bit」を選んだとき

→キーフォーマットが「ASCII(13 文字)」、「16 進数(26 桁)」と表示されます。

(5) 任意の暗号キーを半角英数で入力します。

以下のルールにしたがって入力してください。

	「キーフォーマット」で「**16 進数**」を選択	「キーフォーマット」で「**ASCII**」を選択
「キー長」で「**64-Bit**」を選択	**10 文字の暗号化キーを入力**	**5 文字の暗号化キーを入力**
「キー長」で「**128-Bit**」を選択	**26 文字の暗号化キーを入力**	**13 文字の暗号化キーを入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※文字列の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(6) [適用]をクリックします。

「5.2 無線 LAN セキュリティを変更する」の手順 4 に進みます。

【WPA/WPA2 で設定するとき】

無線セキュリティ設定 - 無線LAN1

無線セキュリティの設定を行います。暗号化キーを用いたWEPまたはWPAを設定し、無線LANネットワークへの不正アクセスを防止できます。

セキュリティ設定

SSIDの選択　ap-pcA-●●●●●●

(4)　適用　リセット

暗号化方式　(1)　WPA2

WPA2 暗号化　AES

キーフォーマット　(2)　パスフレーズ

プレシェアードキー　(3)　12345678

(1) 暗号化方式から「WPA」、「WPA2」、「WPA-Mixed」を選びます。

(2) キーフォーマットから「パスフレーズ」または「16 進数(64 桁)」を選びます。

(3) 任意の暗号キーを半角英数で入力します。

以下のルールにしたがって入力してください。

	「共有キーフォーマット」で「**16 進数**」を選択	「共有キーフォーマット」で「**パスフレーズ**」を選択
暗号化キー	**64 文字**の暗号化キーを入力	**8～63 文字**の間で暗号化キーを入力

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※文字列の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(4) [適用]をクリックします。

「5.2　無線 LAN セキュリティを変更する」の手順 4 に進みます。

5.3 マルチ SSID を設定する

ここでは、マルチ SSID の設定方法を説明します。
本製品は 5GHz、2.4GHz でそれぞれ 3 つの SSID を使用することができ、最大 6 つの SSID を登録して使用することができます。必要に応じて 3 つ目以降の SSID を設定し、通信制御やセキュリティ設定を行います。
本製品は、設定できる SSID を「SSID」(メイン)、「AP1」～「AP2」として扱います。

[マルチ SSID について]

1 台の無線アクセスポイントに複数の SSID を登録して、複数の無線アクセスポイントがあるかのように使うことができる機能です。

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. ［基本設定］をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの［基本設定］をクリックしてください。

3. ［仮想 AP］をクリックします。

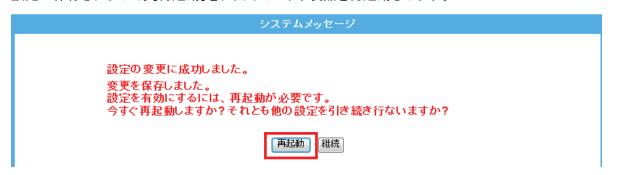
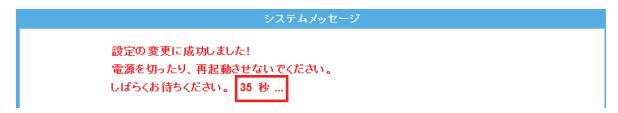
4.　仮想 AP 一覧画面が表示されますので、この画面で AP 1～AP 2 の設定を行います。

（1）追加する「AP1」～「AP2」の「有効」のチェックボックスにチェックを入れます。

（2）任意にネットワーク名を入力します。

※ネットワーク名は半角英数 32 文字以内で入力してください。

（3）[適用]をクリックします。

5.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

6.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

7.　セキュリティを設定します。

※設定方法については「5.2　無線 LAN セキュリティを設定する」を参照してください。

以上で設定の完了です。

各設定項目は以下の通りです。

項目名	動作
有効	仮想 AP を有効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期設定:「AP1」のみ「有効」
無線モード	無線モードを選びます。 【5GHz のとき】 「5GHz(A)」:IEEE802.11a のみで通信します。 「5GHz(N)」:IEEE802.11n のみで通信します。 「5GHz(A+N)」:IEEE802.11 a および IEEE802.11n で通信します。 通常は、ここを選びます。 ※初期設定:「5GHz(A+N)」 【2.4GHz のとき】 「2.4GHz(B)」:IEEE802.11b のみで通信します。 「2.4GHz(G)」:IEEE802.11g のみで通信します。 「2.4GHz(B+G)」:IEEE802.11b および IEEE802.11g で通信します。 「2.4GHz(G+N)」:IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 「2.4GHz(B+G+N)」:IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11n で 通信します。通常は、ここを選びます。 ※初期設定:「2.4GHz(B+G+N)」
SSID	無線 LAN で特定のネットワークを指定するためのグループ名のことを指し、同一の SSID の無線 LAN 機器同士で通信します。 ※半角英数字で 32 文字まで入力できます。 **※SSID は必ず控えてください。** ※初期設定: 「5GHz AP1:ap-tvA-●●●●●●」 「2.4GHz AP1:ap-gameG-●●●●●●」 ●部分は製品ごとに異なります。
伝送速度	伝送速度に制限を掛けるとき、1M～54M、MCS0～MCS15 の範囲で設定します。 通常は「自動」にします。 ※初期設定:「自動」
SSID の通知	SSID を第三者に見られたくないとき、「無効」にします。 不正アクセスを防止することができます。 ※初期設定:「有効」
WMM	IEEE 802.11 でのワイヤレスネットワークを特徴とする基本的な品質を提供します。 「無線モード」で「5GHz(N)」、「5GHz(A+N)」、「2.4GHz(N)」、「2.4GHz(G+N)」、「2.4GHz(B+G+N)」が選択され IEEE802.11n で通信するときは、「WMM」は強制的に「有効」になります。 ※初期設定:「有効」

接続許可	本製品の接続を制御します。 「LAN+WAN」または「WAN」から選びます。 ※初期設定:「LAN+WAN」
クライアント	[一覧表示]をクリックすると下記ウィンドウが表示されます。 接続中の無線クライアントとの通信情報を表示します。 接続中の無線クライアント 各仮想APと無線クライアントとの通信情報を表示します。 接続中の無線クライアント一覧 - 無線LAN1 - AP1 MACアドレス / APモード / 送信パケット / 受信パケット / Txレート(Mbps) / 省電力 / 制限時間(秒) なし / --- / --- / --- / --- / --- / --- 更新 閉じる

5.4 SSID を非表示にする

ここでは、SSID を非表示にする設定方法を説明します。

1. （1）［無線 LAN］をクリックします。
   （2）［無線 LAN1（5GHz）］をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、［無線 LAN2（2.4GHz）］をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. ［基本設定］をクリックします。

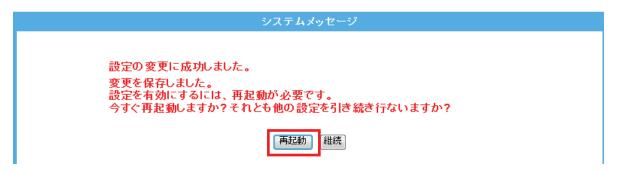
※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの［基本設定］をクリックしてください。

3. 設定します。

(1)SSID の通知で「無効」を選びます。

(2)[適用]をクリックします。

4. 確認のメッセージが出ますので、[OK]をクリックします。

5. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

6. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

7. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

5.5 ダイナミック DNS を設定する

5.5.1 ダイナミック DNS の登録

ここでは、ダイナミック DNS の登録方法を説明します。
本製品は、「CyberGate – DDNS –」、「DynDNS」などのダイナミック DNS サービスに対応しています。
本製品にダイナミック DNS の設定をするときは、あらかじめダイナミック DNS 側の登録を済ませておいてください。

本紙では、「CyberGate – DDNS –」の登録方法をご紹介します。
既にダイナミック DNS サービスの登録が完了しているときは、「5.5.2 ダイナミック DNS の設定」より本製品の設定を行ってください。

■アカウントの登録

1. WEB ブラウザのアドレス欄に「http://cybergate.planex.co.jp/」を入力し、「CYBER GATE」のホームページを表示します。

2. CyberGate – DDNS –のトップページの右メニュー[会員登録]をクリックします。

※「adobe Flash Player」がインストールされていないときは、インストール画面が表示されますので、インストールを実行してください。
※「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたときは、[はい]または[続行]をクリックしてください。

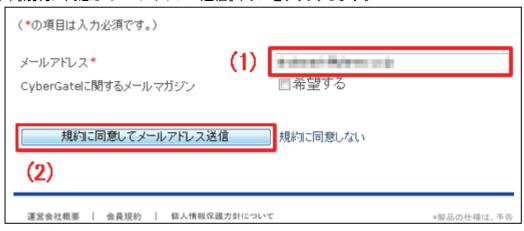
3. 「会員規約」が表示されます。 規約内容を確認が終わったら[同意する]ボタンをクリックします。

4. 「メールアドレス入力フォーム」が表示されます。

(1)メールアドレスを入力します。

＊は必須項目になります。

(2)[規約に同意してメールアドレス送信]ボタンをクリックします。

▼

「xxxx@xxxx.xx.xx 宛にメールを送信しました。」が表示されます。

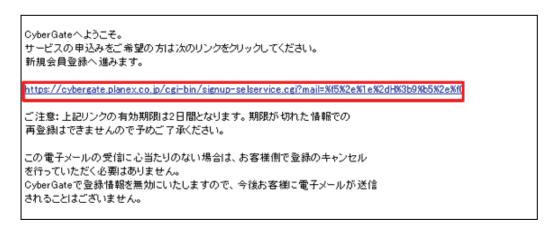
5. 「CyberGate 登録確認」メールが登録したメールアドレス宛てに届きます。

「http://cybergate.planex.co.jp/cgi-bin…」で始まるキーフレーズをクリックします。

CyberGateへようこそ。
サービスの申込みをご希望の方は次のリンクをクリックしてください。
新規会員登録へ進みます。

https://cybergate.planex.co.jp/cgi-bin/signup-selservice.cgi?mail=%f5%2e%1e%2dH%3b9%b5%2e%f0

ご注意：上記リンクの有効期限は2日間となります。期限が切れた情報での
再登録はできませんので予めご了承ください。

この電子メールの受信に心当たりのない場合は、お客様側で登録のキャンセル
を行っていただく必要はありません。
CyberGateで登録情報を無効にいたしますので、今後お客様に電子メールが送信
されることはございません。

6. 「サービス選択」が表示されます。

(1)「DDNS」にチェックを入れます。

(2)［登録情報入力画面へ］をクリックします。

7. 「サイバーゲート登録情報入力」が表示されます。

※「ユーザ ID」と「パスワード」は後の手順で使用するので、メモなどに控えてください。

(1) 以下の内容を入力します。

・姓 ： 全角で姓を入力します。

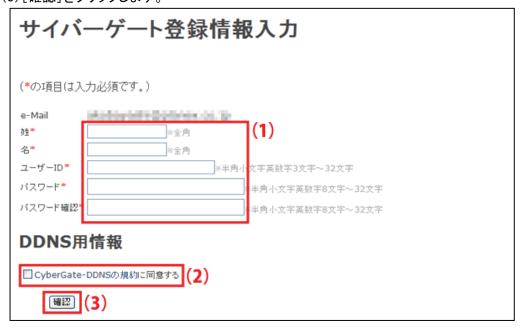
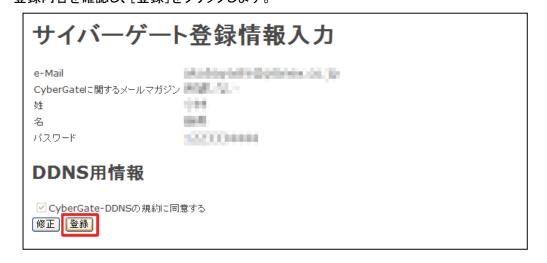
・名 ： 全角で名前を入力します。

・ユーザーID ： 半角小文字英数字でご希望のユーザーID を入力します。(3～32 文字)

・パスワード ： 半角小文字英数字でご希望のパスワードを入力します。(3～32 文字)

・パスワード確認 ： 上記で入力したパスワードを再度入力します。

(2)「CyberGate-DDNS の規約に同意する」にチェックを入れます。

(3)［確認］をクリックします。

8. 「サイバーゲート登録情報入力」の確認画面が表示されます。
登録内容を確認し、[登録]をクリックします。

9. 登録の完了です。お手元に「CyberGate -DDNS- 登録完了」メールが届きます。

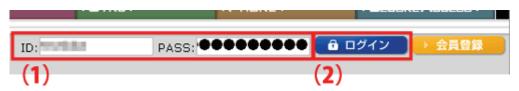
サイバーゲート登録完了

サイバーゲートの登録を行いました。

DDNS登録成功

以上で、登録は完了です。

■ホスト名の登録

1. 「CyberGate -DDNS- 登録完了」メールから CyberGate のトップページを開き、登録した「ID」と「パスワード」を入力して「ログイン」ボタンをクリックしてください。

2. ログインするとユーザ管理ページが表示されます。

3. ダイナミック DNS の設定を行います。
右メニューの「CYBER GATE DDNS」をクリックします。

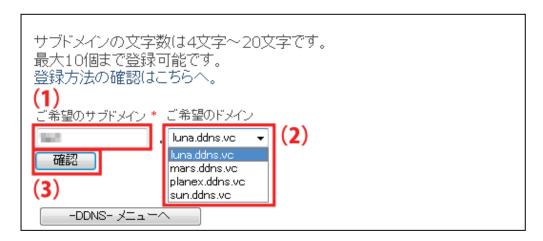
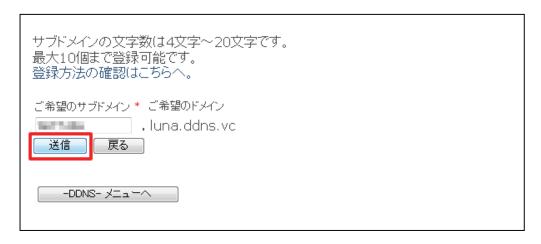
4. 「CyberGate – DDNS –ホストの追加」を選択します。

5. 「サブドメイン」、「ドメイン」設定画面が表示されます。

※「サブドメイン」と「ドメイン」は後の手順で使用するので、メモなどに控えてください。

(1)「ご希望のサブドメイン」に任意のサブドメインを入力します。

(2)ご希望のドメインを選びます。

(3)[確認]をクリックします。

6. [送信]をクリックします。

7. 「登録しました」が表示された後、「現在登録中の DDNS ホスト名一覧」が表示されます。

現在登録中のDDNSホスト名一覧

ホスト名	IPアドレス	IPアドレス変更	削除
[illegible].luna.ddns.vc	オフライン	変更	削除

新たにDDNSのホスト名を取得する場合はここをクリック。

-DDNS- メニューへ

以上で、設定は完了です。

引き続き、「5.5.2　ダイナミック DNS の設定」より本製品の設定を行ってください。

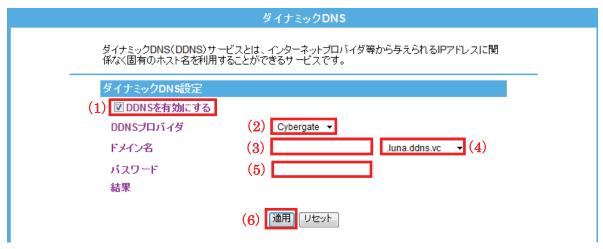
5.5.2 ダイナミック DNS の設定

ここでは、ダイナミック DNS の設定方法を説明します。
本製品に登録したダイナミック DNS の情報を設定します。
本製品に登録しているユーザー名、パスワード等を設定することで、本製品の WAN 側の IP アドレスを定期的にダイナミック DNS サービスに通知します。

1. (1) [管理]をクリックします。
   (2) [ダイナミック DNS の設定]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. ダイナミック DNS の設定をします。

■Cybergate のとき

※あらかじめ「CyberGate – DDNS –」の登録を済ませておいてください。

（1）「DDNS を有効にする」にチェックを入れます。

（2）「Cybergate」を選びます。

（3）「Cybergate」で登録したサブドメイン名を入力します。

（4）「Cybergate」で登録したドメイン名を選らびます。

（5）「Cybergate」で登録したパスワードを入力します。

（6）[適用]をクリックします。

ワンポイント

ダイナミック DNS の設定例は以下を参考にしてください。

DDNS プロバイダ ： Cybergate

ドメイン名 ： test /planex.ddns.vc（プルダウンメニューから選択）【test.planex.ddns.vc のとき】

パスワード ： ******

手順 3 に進みます。

■DynDNS のとき

※あらかじめ「DynDNS」の登録を済ませておいてください。

ダイナミックDNS

ダイナミックDNS(DDNS)サービスとは、インターネットプロバイダ等から与えられるIPアドレスに関係なく固有のホスト名を利用することができるサービスです。

ダイナミックDNS設定

(1) DDNSを有効にする

DDNSプロバイダ (2) DynDNS

ドメイン名 (3)

ユーザ名 (4)

パスワード (5)

結果

(6) 適用 リセット

(1)「DDNS を有効にする」にチェックを入れます。

(2)「DynDNS」を選びます。

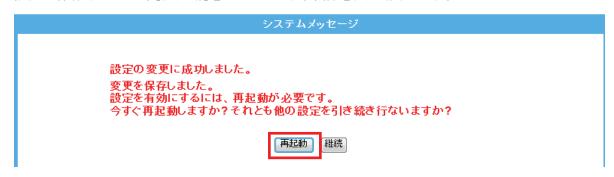
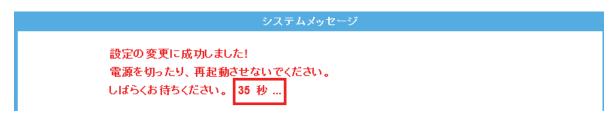
(3)「DynDNS」で登録した Dynamic DNS Hosts を入力します。

(4)「DynDNS」で登録した Username を入力します。

(5)「DynDNS」で登録した Password を入力します。

(6)[適用]をクリックします。

手順 3 に進みます。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定は完了です。

ネットワークカメラを公開したり、本製品の LAN 側にある機器（パソコンなど）をサーバとして公開するときは、引き続き、「5.5.3 ポートを開放する」を参照してください。

5.5.3 ポートを開放する(仮想サーバ)

ここでは、ポート開放(仮想サーバ)の設定方法を説明します。

ネットワークカメラを公開したり、本製品の LAN 側にある機器(パソコンなど)をサーバとして公開するときに利用します。

特定のポートに対して外部(インターネット)からアクセスがあったとき、本製品の LAN 側にある機器(パソコンなど)に通信を転送する設定をおこないます。

※最大 20 個まで設定できます。

※仮想サーバ設定は、ルータモードのみとなります。

※パソコンの IP アドレスは、手動で設定する方法を推奨します。

　設定方法は「7.3 IP アドレスの設定」の「7.3.2 手動設定」を参照してください。

1. (1)[セキュリティ]をクリックします。

   (2)[仮想サーバ]をクリックします。

   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 仮想サーバを設定します。

仮想サーバ

登録したポート番号へのアクセスを、ローカルネットワーク内の特定の機器に転送します。

仮想サーバ設定

(1) ☑ 仮想サーバを有効にする

IPアドレス (2)

プロトコル (3) TCP/UDP

ポート番号の範囲 (4) -

コメント (5) (最大文字数:20)

(登録できる最大設定数:20)

(6) 適用 リセット

ポート転送一覧

IPアドレス	プロトコル	ポート番号の範囲	コメント	選択

選択項目の削除 すべてを削除 リセット

(1)「仮想サーバを有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定:「無効」

(2)仮想サーバとして設定したい機器(パソコンやカメラなど)のローカル IP アドレスを入力します。

(3)「TCP/ UDP」、「TCP」、「UDP」からプロトコルを選びます。

※初期設定:「TCP/ UDP」

(4)開放するポート番号の範囲を入力します。

※範囲指定ではなく一つのポートを入力するときは、右側にも同じポート番号を入力してください。

例) WEB ポート :80

VIDEO ポート :4321

VIDEO ポート :4322

RTSP ポート :554 など

(5)任意にコメントを入力します。(最大文字数:20)

(6)[適用]をクリックします。

※「ポート転送一覧」に追加されます。

※複数登録するときは、上記の手順(2)~(6)を繰り返します。

項目	動作
選択項目の削除	「ポート転送一覧」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。
すべてを削除	すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

3.　画面右上の ✕ をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

仮想サーバの設定例は以下を参考にしてください。

仮想サーバを有効にする	:	チェックを入れます
IP アドレス	:	192.168.111.xxx（ポート開放したい機器）
プロトコル	:	TCP/ UDP
ポート番号の範囲	:	80-80
コメント	:	WebServer

※仮想サーバと DMZ ホストでは仮想サーバが優先されます。仮想サーバで設定されてないポート宛てのパケットが DMZ ホストに転送されます。

5.6 セキュリティを設定する

ここでは、セキュリティの設定設定方法を説明します。

※セキュリティ設定は、ルータモードのみとなります。

※本製品のモードを確認するには、本製品側面のモード切替スイッチを確認してください。

（「2.3 各部の名称とはたらき」を参照。）

セキュリティ画面には、「DMZ」、「URL フィルタ」、「MAC フィルタ」、「ポートフィルタ」、「IP フィルタ」、「仮想サーバ」、「VLAN」のメニューがあり、それぞれ左側のメニューから選ぶことができます。

各設定については、以下の説明を参照してください。

※仮想サーバについては、「5.5.3 ポートを開放する(仮想サーバ)」を参照してください。

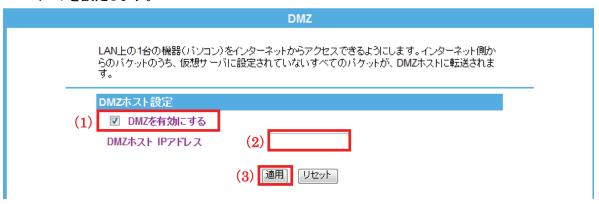
5.6.1 DMZ の設定

ここでは、DMZ の設定方法を説明します。

LAN 上の 1 台の機器(パソコン)をインターネットからアクセスできるようにします。インターネット側からのパケットのうち、仮想サーバに設定されていないすべてのパケットが、DMZ ホストに転送されます。

※DMZ ホストに設定したパソコンにはセキュリティ制限がなくなります。また、DMZ ホストに設定したパソコン側でのセキュリティ対策が必要になりますので、ご注意ください。

1. (1)[セキュリティ]をクリックします。
   (2)[DMZ 設定]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　DMZ ホストを設定します。

(1)「DMZ を有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定：「無効」

(2)DMZ 対象とする機器の IP アドレスを入力します。

(3)[適用]をクリックします。

3.　画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

DMZ の設定例は以下を参考にしてください。

DMZ を有効にする	:	チェックを入れます
DMZ ホスト　IP アドレス	:	192.168.111.xxx

5.6.2 URL フィルタの設定

ここでは、URL フィルタの設定方法を説明します。
登録した URL またはキーワードを含むサイトへの接続を拒否します。
※最大 8 個まで設定できます。

1. (1)[セキュリティ]をクリックします。
   (2)[URL フィルタ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. URL フィルタを設定します。

URLフィルタ

登録したURLまたはキーワードを含むサイトへの接続を拒否します。

URLフィルタ設定

(1) URLフィルタを有効にする

URLまたはキーワード (2) (最大文字数:30)

(登録できる最大設定数:8)

(3) 適用 リセット

URLフィルタ一覧

URLまたはキーワード	選択

選択項目の削除 すべてを削除 リセット

(1)「URL フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定:「無効」

(2)アクセスを制御したい URL アドレスまたはキーワードを入力します。

(3)[適用]をクリックします。

※「URL フィルタ一覧」に追加されます。

※複数の URL フィルタを登録するときは、上記の手順(2)~(3)を繰り返します。

項目	動作
選択項目の削除	「URL フィルタ一覧」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。
すべてを削除	すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

3. 画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

URL フィルタの設定例は以下を参考にしてください。

URL フィルタを有効にする : チェックを入れます。

URL/キーワード : www.xxxxx.co.jp

5.6.3 MAC フィルタの設定

ここでは、MAC フィルタの設定方法を説明します。

MAC アドレスを登録した無線機器のみ、インターネットへの接続が可能になります。

※最大 20 個まで設定できます。

※MAC フィルタリングを有効にするときは、はじめに設定用パソコンの MAC アドレスを登録してください。設定用パソコンの MAC アドレスを登録しないと、設定画面へのログインができなくなりますのでご注意ください。

1. (1)[セキュリティ]をクリックします。

   (2)[MAC フィルタ]をクリックします。

   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. MAC フィルタを設定します。

MACフィルタ

MACアドレスを登録した機器のみ、インターネットへの接続が可能になります。

MACフィルタ設定

(1) MACフィルタを有効にする

MACアドレス (2)

コメント (3) (最大文字数：20)

(登録できる最大設定数：20)

(4) 適用 リセット

MACフィルター覧(許可)

MACアドレス	コメント	選択

選択項目の削除 すべてを削除 リセット

(1)「MAC フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定：「無効」

(2)フィルタの対象となるパソコンの MAC アドレスを入力します。

※入力方法 ： 「00：11：22：33：44：55」のときは、「001122334455」と入力します。

(3)必要に応じてコメントを入力します。(最大文字数：20)

(4)[適用]をクリックします。

※ポートフィルタまたは IP フィルタが有効の場合、「ポートフィルタと IP フィルタは、無効になります!」というメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

※「MAC フィルター覧(許可)」に追加されます。

※複数の MAC アドレスフィルタを登録するときは、上記の手順(2)～(4)を繰り返します。

項目	動作
選択項目の削除	「MAC フィルター覧(許可)」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。
すべてを削除	すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

3. 画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

MAC アドレスフィルタの設定例は以下を参考にしてください。

MAC フィルタを有効にする	:	チェックを入れます
MAC アドレス	:	001122334455
コメント	:	WebClient

5.6.4 ポートフィルタの設定

ここでは、ポートフィルタの設定方法を説明します。
登録したポート番号を開放し、開放したポート番号を利用する通信のみ可能になります。
※最大 20 個まで設定できます。

1. (1) [セキュリティ]をクリックします。
   (2) [ポートフィルタ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. ポートフィルタを設定します。

ポートフィルタ

登録したポート番号を開放し、開放したポート番号を利用する通信のみ可能になります。

ポートフィルタ

(1) ☑ ポートフィルタを有効にする

ポート番号の範囲 (2) [ ] - [ ]

プロトコル (3) TCP/UDP

コメント (4) [ ] (最大文字数:20)

(登録できる最大設定数:20)

(5) [適用] [リセット]

ポートフィルタ一覧(許可)

ポート番号の範囲	プロトコル	コメント	選択

[選択項目の削除] [すべてを削除] [リセット]

(1)「ポートフィルタを有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定:「無効」

(2)開放するポート番号の範囲を入力します。

※1～65535 の範囲内の値で設定します。

※範囲指定ではなく一つのポートを入力するときは、右側にも同じポート番号を入力してください。

(3)「TCP/ UDP」、「TCP」、「UDP」から選びます。

※初期設定:「TCP/ UDP」

(4)必要に応じてコメントを入力します。(最大文字数:20)

(5)[適用]をクリックします。

※MAC フィルタまたは IP フィルタが有効の場合、「MAC フィルタと IP フィルタは、無効になります!」というメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

※「ポートフィルタ一覧(許可)」に追加されます。

※複数の IP アドレスフィルタを登録するときは、上記の手順(2)～(5)を繰り返します。

項目	動作
選択項目の削除	「ポートフィルタ一覧(許可)」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。
すべてを削除	すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

3. 画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

ポートフィルタの設定例は以下を参考にしてください。

ポートフィルタを有効にする	：	チェックを入れます
ポート範囲	：	80-80
プロトコル	：	TCP/ UDP
コメント	：	WebServer

5.6.5 IP フィルタの設定

ここでは、IP フィルタの設定方法を説明します。

IP アドレスを登録した機器のみ、指定したプロトコルによるインターネットへの接続が可能になります。

※最大 20 個まで設定できます。

※IP フィルタリングを使用するときは、はじめに設定用パソコンの IP アドレスを登録してください。
設定用パソコンの IP アドレスを登録しないと設定画面へのログインができなくなりますので、ご注意ください。

1. (1) [セキュリティ]をクリックします。
   (2) [IP フィルタ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　IP フィルタを設定します。

IPフィルタ

IPアドレスを登録した機器のみ、指定したプロトコルによるインターネットへの接続が可能になります。

IPフィルタ設定

(1) IPフィルタを有効にする

ローカルIPアドレス (2)

プロトコル (3) TCP/UDP

コメント (4) (最大文字数：20)

(登録できる最大設定数：20)

(5) 適用 リセット

IPフィルタ一覧(許可)

ローカルIPアドレス	プロトコル	コメント	選択

選択項目の削除　すべてを削除　リセット

(1)「IP フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定：「無効」

(2)フィルタの対象となる LAN 側の IP アドレスを入力します。

(3)「TCP/ UDP」、「TCP」、「UDP」から選びます。

※初期設定：「TCP/ UDP」

(4)必要に応じてコメントを入力します。(最大文字数：20)

(5)[適用]をクリックします。

※ポートフィルタまたは MAC フィルタが有効の場合、

「ポートフィルタと MAC フィルタは、無効になります!」というメッセージが表示されますので、

[OK]をクリックします。

※「IP フィルタ一覧(許可)」に追加されます。

※複数の IP アドレスフィルタを登録するときは、上記の手順(2)～(5)を繰り返します。

項目	動作
選択項目の削除	「IP フィルタ一覧(許可)」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。
すべてを削除	すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。

3.　画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

IP フィルタの設定例は以下を参考にしてください。

IP フィルタを有効にする	：	チェックを入れます
ローカル IP アドレス	：	192.168.111.xxx（ローカルのパソコンの IP アドレス）
プロトコル	：	TCP/ UDP
コメント	：	WebClient

5.6.6 VLAN の設定

ここでは、VLAN の設定方法を説明します。
各ネットワークを任意に分割し、ネットワークグループを作成します。

1. (1)[セキュリティ]をクリックします。
   (2)[VLAN]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. VLAN を設定します。

(1)「VLAN を有効にする」にチェックを入れます。

(2)下記の設定項目一覧を参考に VLAN の設定を行います。

(3)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
有効	VLAN を定義するネットワークを指定します。 ※ブロードキャストをどのグループに送るかを決めます。
VID(1～4090)	VLAN グループを設定します。 例えば、VID「1」で設定したグループ内では通信が可能ですが、他のグループ(例:VID「10」)とは通信ができません。 ※グループは番号(1～4090)で設定します。
優先度	優先度を 0～7 で設定します。 ※初期設定:「0」

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました。
変更を保存しました。
設定を有効にするには、再起動が必要です。
今すぐ再起動しますか？それとも他の設定を引き続き行ないますか？

再起動　継続

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました！
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

VLAN の設定例は以下を参考にしてください。

VLAN を有効にする	:	チェックを入れます。
有効	:	「無線 LAN1」「有線ポート 2」にチェックを入れます。
VID	:	1
優先度	:	0

5.7 WDS の設定

ここでは、WDS(アクセスポイント間通信)の設定方法を説明します。
本製品にはアクセスポイント間通信をするWDS機能を搭載しています。離れた場所に設置した複数台の本製品同士を無線接続できます。

接続例
以下の接続環境を例に説明します。

■WDS の設定内容について

WDS 機能を使って、アクセスポイント間通信を行うには、以下の設定が必要です。
該当する各手順を参照して、「本製品 A」と「本製品 B」を設定してください。

(冒頭の接続図を例に説明します)

	本製品 A	本製品 B
モード	「ルータモード」に設定します。 ※設定方法は「6.1　モードを変更する」を参照 (モードを切り替えてください)	AP(アクセスポイント)モードに設定します。 ※設定方法は「2.3 各部の名称とはたらき」を参照
セキュリティ	メイン SSID のセキュリティを設定します。	本製品 A と同じセキュリティを設定します。
MAC アドレス	本製品 B の無線 LAN(BSSID)の MAC アドレスを設定します。 ※　BSSID の確認は「6.6.1　ステータス」を参照	本製品 A の無線 LAN(BSSID)の MAC アドレスを設定します。 ※　BSSID の確認は「6.6.1　ステータス」を参照
IP アドレス (LAN 側)	例:192.168.111.1	本製品 A と同じセグメントの IP アドレスを設定します。 例:192.168.111.240
DHCP	「サーバ」に設定します。 ※設定方法は「6.3.1 LAN　設定」を参照	「無効」に設定します。

※ LAN 側の IP アドレスが、それぞれの本製品で同一にならないように設定します。

(例)　1 台目の本製品が「192.168.111.1」のときは、2 台目の本製品を「192.168.111.240」のように、頭から 3 つ目まで同じで、4 つ目の数値を重複しないように設定を変更します。

【本製品 A の設定】

本製品 A 側を設定します。

本手順では、5GHz 帯でセキュリティを「WPA2」に設定する手順で説明します。

注意 1： 事前に本製品 A と本製品 B の無線 LAN 側 MAC アドレス（BSSID）を確認し、メモに控えてください。
確認方法は、「6.6.1　ステータス」を参照してください。

暗号化方式	無効
BSSID	

注意 2： 本製品のモード切替スイッチ（P90 参照）を「ルータモード」に設定してください。

1. (1) [無線 LAN]をクリックします。
   (2) [無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯で設定したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

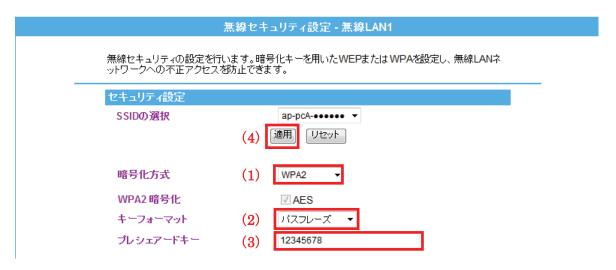
2. [セキュリティ]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[セキュリティ]をクリックしてください。

3.　セキュリティを設定します。

※ここで設定するセキュリティはアクセスポイント側の設定です。WDS 用は手順 10 にて行います。

※すでに「ap-pcA-●●●●●●」に接続している機器があるときは、ここで設定する内容に変更してください。

※2.4GHz 帯のときは、「ap-pcG-●●●●●●」を選びます。

（1） 暗号化方式より「WPA2」を選びます。

（2） キーフォーマットより「パスフレーズ」または「16 進数（64 桁）」を選びます。

（3） 任意の暗号キーを半角英数で入力します。

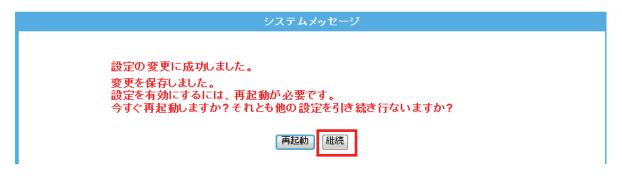
以下のルールにしたがって入力してください。

	（2）で「16 進数」を選んだとき	（2）で「パスフレーズ」を選んだとき
パスフレーズ	**64 文字で入力**	**8～63 文字の間で入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※文字列の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

（4） [適用]をクリックします。

4.　設定が保存されました。[継続]をクリックします。

5.　WDS モードにします。

(1)［基本設定］をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの［基本設定］をクリックしてください。

(2)AP モードで、「AP+WDS」を選びます。

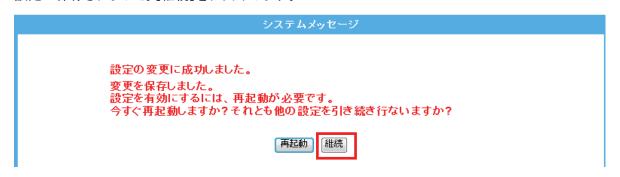
(3)「36」～「48」の間で、「チャンネル」を任意に設定します。

※「Auto(DFS)」は設定しないでください。

※2.4GHz帯のときは、「1」～「13」の間で「チャンネル」を任意に設定します。

※ここで設定したチャンネルは本製品 B にも設定します。メモに控えてください。

(4)［適用］をクリックします。

6.　設定が保存されました。［継続］をクリックします。

7.　WDS の設定を行います。

(1)[WDS]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[WDS]をクリックしてください。

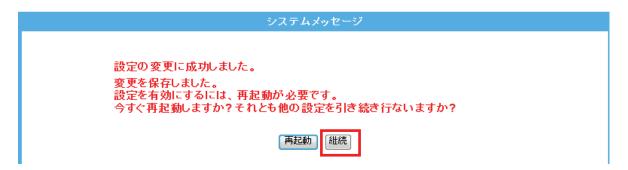
(2)[WDS を有効にする]をチェックします。

(3)本製品 B の無線 LAN1 側(2.4GHz 帯のときは、無線 LAN2 側)の MAC アドレスを入力します。

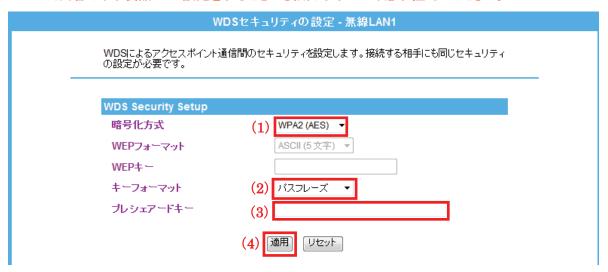
※入力方法　：　「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。

(4)任意にコメントを入力します。

(5)[適用]をクリックします。

8.　設定が保存されました。[継続]をクリックします。

9.　「WDS」の画面に戻ります。画面中央の[セキュリティ設定]をクリックします。

10.　WDS 用のセキュリティを設定し、設定した内容をメモに控えます。

※メモした内容は、本製品 B の設定をするときに使用しますので、必ず控えてください。

(1)「暗号化方式」より「WPA2（AES）」を選びます。

(2)「パスフレーズ」または「16 進数 （64 桁）」を選びます。

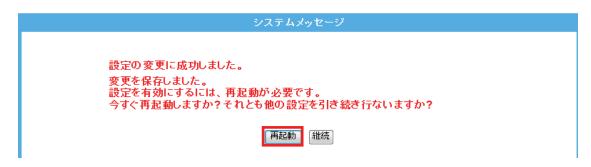
(3)任意の暗号化キーを半角英数で入力します。以下のルールにしたがって入力してください。

	(2)で「パスフレーズ」を選択時	(2)で「16 進数(64 桁)」を選択時
プレシェアードキー	**8～63 文字の間で入力**	**64 文字で入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※パスフレーズの入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(4)[適用]をクリックします。

11. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

12. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

13. 設定画面に戻りましたら、IP アドレスを設定します。

(1)[ネットワーク]をクリックします。

(2)[LAN セットアップ]をクリックします。

(3)「DHCP モード」で「サーバ」を選びます。

(4)IP アドレスを「192.168.111.1」に設定します。

(5)[適用]をクリックします。

14. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。
※「システムメッセージ」画面が表示されたときは、[再起動]をクリックしてください。

15. 設定画面に戻ります。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上、本製品 A の設定は完了です。

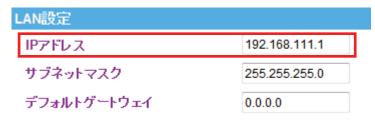
【本製品 B の設定】

本製品 B 側を設定します。

本手順では、5GHz 帯でセキュリティを「WPA2」に設定する手順で説明します。

注意 1： 事前に本製品 A と本製品 B の無線 LAN 側 MAC アドレス（BSSID）を確認し、メモに控えてください。
確認方法は、「6.6.1　ステータス」を参照してください。

暗号化方式	無効
BSSID	[illegible]

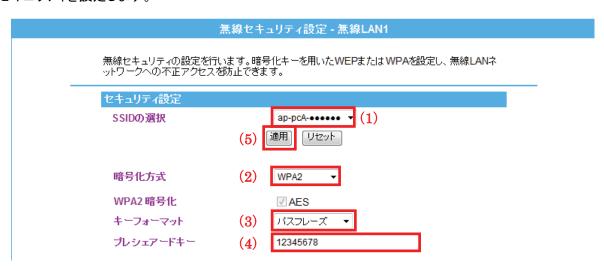
注意 2： 事前に本製品 A に設定された IP アドレスを確認し、メモに控えてください。
確認方法は、「6.3.1　LAN 設定」を参照してください。

（上記の IP アドレス「192.168.111.1」は例です。実際の環境と設定値は異なります）

注意 3： 本製品のモード切替スイッチ（P18 参照）を「AP」（アクセスポイント）に設定してください。

1.　（1）[無線 LAN]をクリックします。
（2）[無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
※2.4GHz 帯で設定したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　[セキュリティ]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[セキュリティ]をクリックしてください。

3. セキュリティを設定します。

(1) SSID の選択にて、「ap-pcA-●●●●●●」を選びます。

（「●●●●●●」は製品ごとに異なります）

※2.4GHz 帯のときは、「ap-pcG-●●●●●●」を選びます。

(2) 暗号化方式より「WPA2」を選びます。

(3) キーフォーマットより「16 進数(64 桁)」または「パスフレーズ」を選びます。

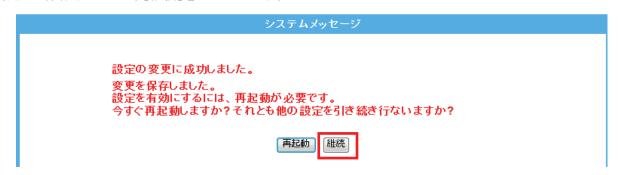
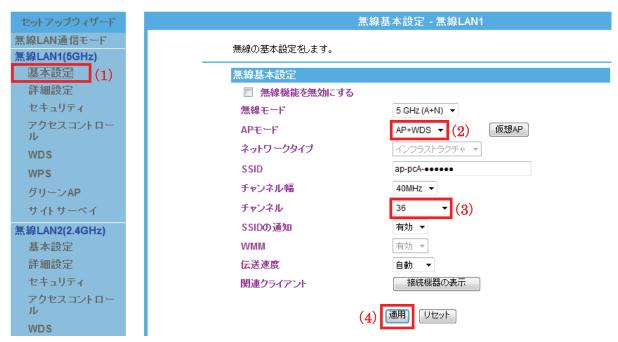
(4) 任意の暗号化キーを半角英数で入力します。以下のルールにしたがって入力してください。

	(3)で「16 進数」を選んだとき	(3)で「パスフレーズ」を選んだとき
パスフレーズ	**64 文字で入力**	**8～63 文字の間で入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※パスフレーズの入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(5) [適用]をクリックします。

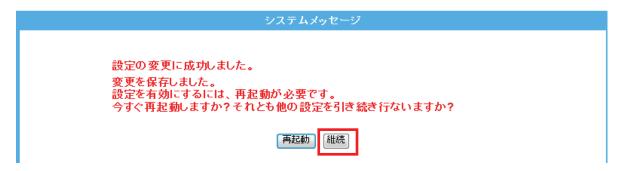
4. 設定が保存されました。[継続]をクリックします。

5. WDS モードにします。

(1)[基本設定]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[基本設定]をクリックしてください。

(2)AP モードで、「AP+WDS」を選びます。

(3)本製品 A の設定でメモした同じチャンネルを選びます。

(4)[適用]をクリックします。

6. 設定が保存されました。[継続]をクリックします。

7. WDS の設定を行います。

(1) [WDS]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[WDS]をクリックしてください。

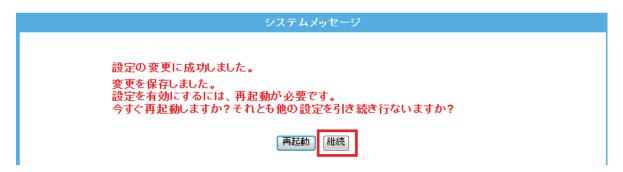
(2)「WDS を有効にする」をチェックします。

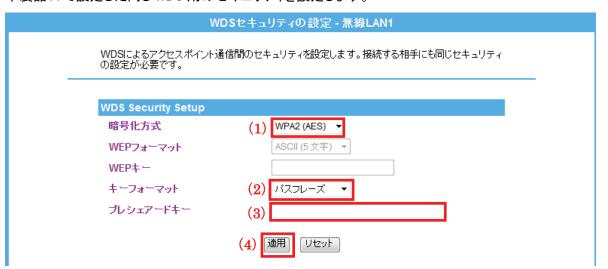
(3) 本製品 B の無線 LAN1 側(2.4GHz 帯のときは、無線 LAN2 側)の MAC アドレスを入力します。

※入力方法 ： 「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。

(4) 任意にコメントを入力します。

(5) [適用]をクリックします。

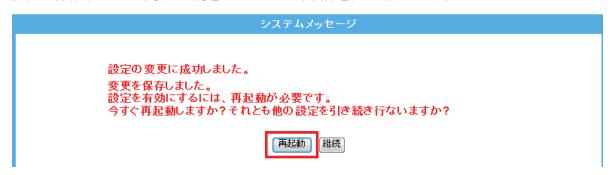
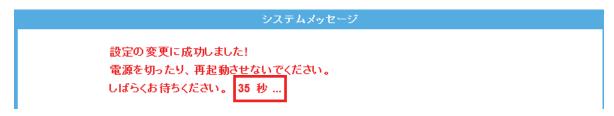
8. 設定が保存されました。[継続]をクリックします。

9. 「WDS」の画面に戻ります。画面中央の［セキュリティ設定］をクリックします。

10. 本製品 A で設定した同じ WDS 用のセキュリティを設定します。

(1) 本製品 A で設定した「WPA2」を選びます。

(2) 本製品 A で設定した「キーフォーマット」を選びます。

(3) 本製品 A で設定した暗号化キーを入力します。

(4) ［適用］をクリックします。

11. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

12. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

13. 設定画面に戻りましたら、IP アドレスを設定します。

(1)[ネットワーク]をクリックします。

(2)[LAN セットアップ]をクリックします。

(3)「DHCP モード」を「無効」にします。

(4)本製品 A に設定した IP アドレスに合わせて、本製品 B の IP アドレスを入力します。

例)本製品 A が「192.168.111.1」のときは、本製品 B は「192.168.111.240」と設定します。

※IP アドレスの右一つ目(例では 240 の部分)が重複しない「2」～「248」の数値を入力します。

(5)[適用]をクリックします。

14. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

15. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上、本製品 B の設定は完了です。

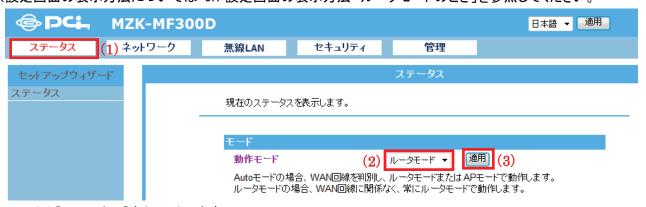
※うまく接続できないときは、本製品 A と本製品 B の電源を入れ直し、本製品を再起動してください。

第 6 章 詳細設定

ここでは、各設定画面に関して説明します。
※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

6.1 モードを変更する

ここでは、設定画面でモードを変更する方法を説明します。
本体のモード切替スイッチが「Auto」になっているときに、本製品はインターネット回線を判別し、ルータモードまたは AP モードへ自動切替をしています。
通常「Auto」に設定しますが、任意に「ルータ」に設定する手順を説明します。
※設定画面では AP モードへ変更することはできません。AP へ変更するときは、本体のモード切替スイッチで変更してください。
※設定画面ではコンバータモードへ変更することはできません。コンバータモードへ変更するときは、本体のモード切替スイッチで変更してください。
※本体のモード切替スイッチで変更したモードを優先します。
※本体のモード切替スイッチでモードを変更する方法は、「2.3　各部の名称とはたらき」を参照してください。

1. 以下の手順で設定します。
※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法　ルータモードのとき」を参照してください。

(1)[ステータス]をクリックします。
(2)動作モードから「ルータモード」を選びます。
※「モード」は、本製品本体のモード切替スイッチが「Auto」になっているときのみ表示されます。
(3)[適用]をクリックします。

2. 設定が保存されました。本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました！
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

3. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.2 インターネット関連の設定

ここでは、インターネット接続の設定方法を説明します。

WAN の接続タイプによって、設定画面が異なります。

- 通常接続（DHCP）でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.1 通常接続（DHCP）へ

- PPPoE でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.2 PPPoE 接続へ

- 固定 IP でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.3 固定 IP 接続へ

- マルチ PPPoE でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.4 マルチ PPPoE 接続へ

- Unnumbered PPPoE でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.5 Unnumbered PPPoE 接続へ

6.2.1　通常接続（DHCP）

ここでは、通常接続（DHCP）の設定方法を説明します。
CATV などのご契約のときに通常接続（DHCP）を使用します。
CATV 回線の一部のプロバイダで MAC アドレス登録が必要なときは、下記の「ワンポイント」を参照してください。
※付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」または「コンバータ設定ガイド」で設定を済ませているときは、ここでの設定は不要です。

1.　（1）［ネットワーク］をクリックします。
　（2）［WAN セットアップ］をクリックします。
　※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 以下の手順で設定します。

インターネット設定

WANの各種設定を行います。

WAN設定

WANの種類 DHCP接続 (1)

Internet側に存在するDHCPサーバからIPアドレスを自動取得します。多くのCATV接続がこの方式を採用しています。ネットワーク機器側に何の設定も必要とせずモデム等と通信可能であった環境の場合は、プロバイダがこの方式を採用している可能性が高いと考えられます。

ホスト名 PCI

MTU値 1500 (1400-1500 bytes)

DNS自動設定

DNS手動設定

DNS 1

DNS 2

DNS 3

WAN詳細設定

MACアドレスコピー 000000000000 MACコピー

UPnPを有効にする

IGMPプロキシを有効にする

WAN側からのPINGを有効にする

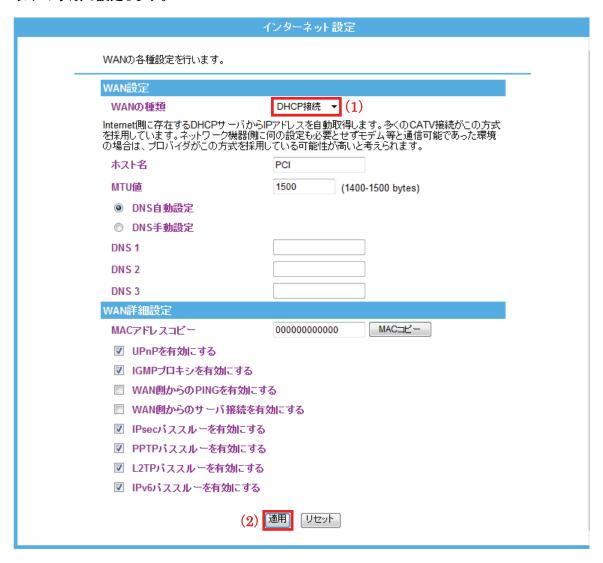
WAN側からのサーバ接続を有効にする

IPsecパススルーを有効にする

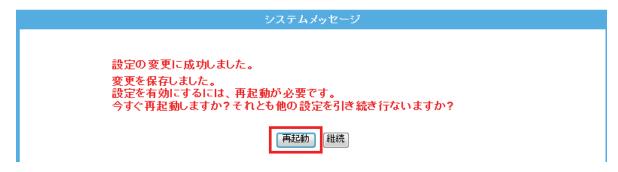
PPTPパススルーを有効にする

L2TPパススルーを有効にする

IPv6パススルーを有効にする

(2) 適用 リセット

(1)「DHCP 接続」を選びます。

(2)[適用]をクリックします。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

5.　設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

CATV 回線の一部のプロバイダによっては、MAC アドレス登録が必要なときがあります。
そのときは、[MAC アドレスコピー]ボタンをクリックし、設定用パソコンの MAC アドレスをコピーするか、プロバイダに登録してある MAC アドレスを「MAC アドレスコピー」欄に入力して、[適用]をクリックします。

項目名	動作
ホスト名（任意）	プロバイダなどの接続先を任意に入力します。 ※初期設定：「PCI」
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 本製品に接続している機器の MAC アドレスを送りたいとき、[MAC コピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
MTU 値	MTU 値を設定します。 ※通常は初期設定のまま使用します。 ※初期設定:「1500」
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。 ※初期設定:「自動」
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 ※初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 ※通常は「有効」にしてください。 ※初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部（インターネット）側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部（インターネット）側からの接続を「有効」／「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 ※初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 ※初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 ※初期設定:「有効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 ※初期設定:「有効」

6.2.2 PPPoE 接続

ここでは、PPPoE 接続の設定方法を説明します。
※付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」で設定を済ませているときは、ここでの設定は不要です。

1. (1)[ネットワーク]をクリックします。
   (2)[WAN セットアップ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 以下の手順で設定します。

インターネット設定

WANの各種設定を行います。

WAN設定

WANの種類 PPPoE接続 (1)

PPPoEプロトコルを使用して、プロバイダからIPアドレスを自動取得します。PPPoEサーバからIPアドレスを取得するためには、接続先ユーザ名と接続先パスワードが必要となります。

PPPoEタイプ	PPPoE
マルチPPPoE接続先	フレッツ 東日本
IPアドレス	
サブネットマスク	
ユーザ名	(2)
パスワード	(3)
サーバ名	
接続タイプ	常時接続 [接続] [切断]
待機時間	5 (1-1000 分)
MTU値	1454 (1360~1492 bytes)

◉ DNS自動設定
○ DNS手動設定

DNS 1	
DNS 2	
DNS 3	

WAN詳細設定

MACアドレスコピー 000000000000 [MACコピー]

- ☑ UPnPを有効にする
- ☑ IGMPプロキシを有効にする
- ☐ WAN側からのPINGを有効にする
- ☐ WAN側からのサーバ接続を有効にする
- ☑ IPsecパススルーを有効にする
- ☑ PPTPパススルーを有効にする
- ☑ L2TPパススルーを有効にする
- ☑ IPv6パススルーを有効にする

(4) [適用] [リセット]

(1)WAN の種類から「PPPoE 接続」を選びます。

(2)「ユーザ名」にプロバイダ指定のユーザ名(例:abc123@xyz.ne.jp)を入力します。

(3)「パスワード」にプロバイダ指定のパスワード(例:abcDEF123)を入力します。

(4)[適用]をクリックします。

※ユーザ名は、事業者により「ログイン名」、「接続ユーザ名」、「ユーザ ID」などと表記する場合があります。

※大文字小文字に注意し、半角英数にて入力してください。

3.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5.　設定画面に戻ります。。

画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

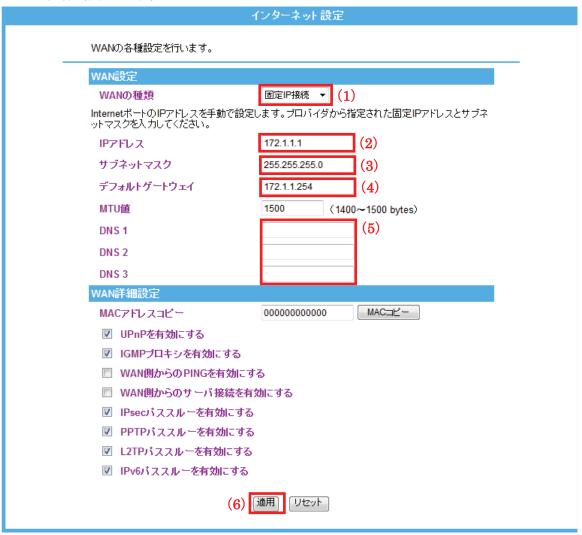
項目名	動作
サーバ名	任意で入力します。(最大文字数:40)
接続タイプ	「常時接続」: プロバイダに常時接続します。 ※通常はこちらを選択します。 「オンデマンド」: 接続要求があった場合にのみ接続を行います。 「手動接続」: 毎回「接続」・「切断」の操作を手動で行う必要があります。 ※インターネット接続するときは[接続]を、インターネット接続を終了するときは[切断]をクリックします。 ※初期設定:「常時接続」
待機時間	オンデマンド接続時の待機時間を「1-1000 分」で設定します。 初期設定:「5」分
MTU 値	MTU 値を設定します。 ※通常は初期設定のまま使用します。 ※初期設定:「1454」
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1~3」に入力してください。 ※初期設定:「自動」
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC コピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 ※初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 ※初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部(インターネット)側からの Ping 応答を「有効」/「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部(インターネット)側からの接続を「有効」/「無効」にします。 ※初期設定:「無効」

IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 ※初期設定:「有効」

6.2.3 固定 IP 接続

ここでは、固定 IP 接続の設定方法を説明します。
※固定 IP アドレスが割り当てられているとき（本製品の上位にルータがあるときなど）に設定します。
※付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」または「コンバータ設定ガイド」で設定を済ませているときは、ここでの設定は不要です。

1. （1）[ネットワーク]をクリックします。
   （2）[WAN セットアップ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

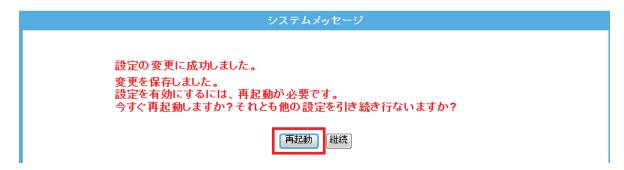
2.　以下の手順で設定します。

(1)「固定 IP」を選びます。

(2)プロバイダや上位のルータから割り当てられた IP アドレスを入力します。

(3)プロバイダや上位のルータから割り当てられたサブネットマスクを入力します。

(4)プロバイダや上位のルータから割り当てられたデフォルトゲートウェイを入力します。

(5)プロバイダや上位のルータから割り当てられた DNS アドレスを入力します。

(6)[適用]をクリックします。

3.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
MTU 値	MTU 値を設定します。 ※通常は初期設定のまま使用します。 ※初期設定:「1500」
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC コピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 ※初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 ※初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部（インターネット）側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部（インターネット）側からの接続を「有効」／「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 ※初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 ※初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 ※初期設定:「有効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 ※初期設定:「有効」

6.2.4　マルチ PPPoE 接続

ここでは、マルチ PPPoE 接続の設定方法を説明します。
PPPoE マルチ（PPPoE マルチセッション）とは、一つの回線で複数のセッションに同時接続できる機能です。
本製品は、最大 2 つの PPPoE セッションに同時接続できます。

1.　（1）[ネットワーク]をクリックします。
　（2）[WAN セットアップ]をクリックします。
　※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 以下の手順で設定します。

インターネット設定

WANの各種設定を行います。

WAN設定

WANの種類	PPPoE接続 (1)

PPPoEプロトコルを使用して、プロバイダからIPアドレスを自動取得します。PPPoEサーバからIPアドレスを取得するためには、接続先ユーザ名と接続先パスワードが必要となります。

PPPoEタイプ	マルチPPPoE (2)
マルチPPPoE接続先	フレッツ 東日本 (3)
IPアドレス	
サブネットマスク	
ユーザ名	(4)
パスワード	(5)
サーバ名	
接続タイプ	常時接続 [接続] [切断]
待機時間	5 (1-1000 分)
MTU値	1454 (1360~1492 bytes)

- DNS自動設定
- DNS手動設定

DNS 1	
DNS 2	
DNS 3	

WAN詳細設定

MACアドレスコピー	000000000000 [MACコピー]

- ☑ UPnPを有効にする
- ☑ IGMPプロキシを有効にする
- ☐ WAN側からのPINGを有効にする
- ☐ WAN側からのサーバ接続を有効にする
- ☑ IPsecパススルーを有効にする
- ☑ PPTPパススルーを有効にする
- ☑ L2TPパススルーを有効にする
- ☑ IPv6パススルーを有効にする

(6) [適用] [リセット]

(1)「PPPoE 接続」を選びます。

(2)「マルチ PPPoE」を選びます。

(3)「フレッツ東日本」または「フレッツ西日本」を選びます。

(4)「ユーザ名」にプロバイダ指定のユーザ名（例:abc123@xyz.ne.jp）を入力します。

(5)「パスワード」にプロバイダ指定のパスワード（例:abcDEF123）を入力します。

(6)［適用］をクリックします。

※ユーザ名は、事業者により「ログイン名」、「接続ユーザ名」、「ユーザ ID」などと表記する場合があります。

※大文字小文字に注意し、半角英数にて入力してください。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
サーバ名	任意で入力します。(最大文字数:40)
接続タイプ	「常時接続」: プロバイダに常時接続します。 ※通常はこちらを選択します。 「オンデマンド」: 接続要求があった場合にのみ接続を行います。 「手動接続」: 毎回「接続」・「切断」の操作を手動で行う必要があります。 ※インターネット接続するときは[接続]を、インターネット接続を終了するときは[切断]をクリックします。 ※初期設定:「常時接続」
待機時間	オンデマンド接続時の待機時間を「1-1000 分」で設定します。 ※初期設定:「5」分
MTU 値	MTU 値を設定します。 ※通常は初期設定のまま使用します。 ※初期設定:「1454」
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。 ※初期設定:「自動」
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC コピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 ※初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 ※初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部(インターネット)側からの Ping 応答を「有効」/「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部(インターネット)側からの接続を「有効」/「無効」にします。 ※初期設定:「無効」

IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 ※初期設定:「有効」

6.2.5　Unnumberd PPPoE 接続

ここでは、Unnumbered PPPoE 接続の設定方法を説明します。
本製品は、Unnumbered PPPoE 接続に対応しており、複数の固定 IP アドレスを本製品に接続されたそれぞれのパソコンに割り当てることができます。
プロバイダから複数のグローバル IP アドレスを割り当てられるときは、1 つのサブネットとして連続したグローバル IP アドレスが割り当てられます。このうち、最初（ネットワークアドレス）と最後（ブロードキャストアドレス）はシステムで予約されるため、ホスト（パソコンやサーバ）には使用できません。

以下の表は「Unnumbered PPPoE 接続」としてプロバイダから割り当てられた IP アドレスの設定例です。
例：プロバイダから 153.16.10.8～153.16.10.15 の 8 個のグローバル IP アドレスが割り当てられたとき

IP アドレス設定例

153.16.10.8	ネットワークアドレス	設定しません
153.16.10.9	ルータ用	本製品の WAN ポートに設定
153.16.10.10～14	ホスト用	パソコンに設定
153.16.10.15	ブロードキャストアドレス	設定しません

1.　(1)［ネットワーク］をクリックします。
　(2)［WAN セットアップ］をクリックします。
　※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 以下の手順で設定します。

インターネット設定

WANの各種設定を行います。

WAN設定

WANの種類 PPPoE接続 (1)

PPPoEプロトコルを使用して、プロバイダからIPアドレスを自動取得します。PPPoEサーバからIPアドレスを取得するためには、接続先ユーザ名と接続先パスワードが必要となります。

PPPoEタイプ PPPoE Unnumbered (2)

マルチPPPoE接続先 フレッツ 東日本

IPアドレス (3)

サブネットマスク (4)

ユーザ名 (5)

パスワード (6)

サーバ名

接続タイプ 常時接続 接続 切断

待機時間 5 (1-1000 分)

MTU値 1454 (1360～1492 bytes)

DNS自動設定

DNS手動設定

DNS 1

DNS 2

DNS 3

WAN詳細設定

MACアドレスコピー 000000000000 MACコピー

UPnPを有効にする

IGMPプロキシを有効にする

WAN側からのPINGを有効にする

WAN側からのサーバ接続を有効にする

IPsecパススルーを有効にする

PPTPパススルーを有効にする

L2TPパススルーを有効にする

IPv6パススルーを有効にする

(7) 適用 リセット

(1)WAN の種類から「PPPoE 接続」を選びます。

(2)PPPoE タイプから「PPPoE Unnumbered」を選びます。

(3)ルータに割り当てる IP アドレスを入力します

(通常はプロバイダから指定された 2 番目のアドレスになります)。

(4)プロバイダ指定のサブネットマスクを入力します。

(5)「ユーザ名」にプロバイダ指定のユーザ名(例:abc123@xyz.ne.jp)を入力します。

(6)「パスワード」にプロバイダ指定のパスワード(例:abcDEF123)を入力します。

(7)[適用]をクリックします。

※ユーザ名は、事業者により「ログイン名」、「接続ユーザ名」、「ユーザ ID」などと表記する場合があります。

※大文字小文字に注意し、半角英数にて入力してください。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
サーバ名	任意で入力します。(最大文字数:40)
接続タイプ	「常時接続」: プロバイダに常時接続します。 ※通常はこちらを選択します。 「オンデマンド」: 接続要求があった場合にのみ接続を行います。 「手動接続」: 毎回「接続」・「切断」の操作を手動で行う必要があります。 ※インターネット接続するときは[接続]を、インターネット接続を終了するときは[切断]をクリックします。 ※初期設定:「常時接続」
待機時間	オンデマンド接続時の待機時間を「1-1000 分」で設定します。 ※初期設定:「5」分
MTU 値	MTU 値を設定します。 ※通常は初期設定のまま使用します。 ※初期設定:「1454」
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。 ※初期設定:「自動」
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC コピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 ※初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 ※初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部(インターネット)側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 ※初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部(インターネット)側からの接続を「有効」／「無効」にします。 ※初期設定:「無効」

IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 ※初期設定:「有効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 ※初期設定:「有効」

6.3 ネットワーク関連の設定

ここでは、ネットワーク関連の各種設定方法を説明します。

6.3.1 LAN 設定

ここでは、LAN 側の設定方法を説明します。

1. (1)[ネットワーク]をクリックします。
   (2)[LAN セットアップ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

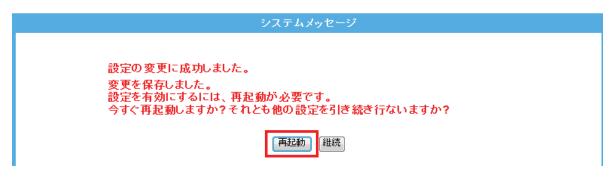
2. 各項目を設定します。設定後、[適用]をクリックします。

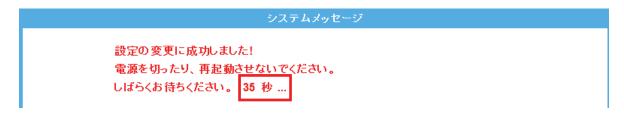
LANセットアップ

LANの各種設定を行います。

LAN設定

IPアドレス	192.168.111.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DHCPモード	自動
DHCPリース期間	480 (1 ~ 10080分)
IPアドレス範囲	192.168.111.100 - 192.168.111.200

[適用] [リセット]

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

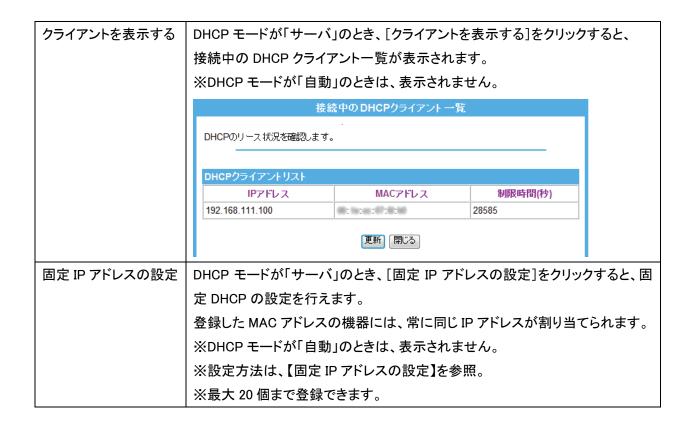
4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

注意：設定を変更した後は、パソコンなど各ネットワーク機器は一度再起動してください。
変更した IP アドレスなどの値はメモなどに取って保管してください。

各項目の設定内容は以下の通りです。

項目名	動作
IP アドレス	本製品に設定する LAN 側の IP アドレスを入力します。 ※DHCP モードが「クライアント」のときは、設定できません。 ※初期設定： 「ルータ ： 192.168.111.1」 「AP ： 192.168.1.250」 「コンバータ ： 192.168.1.249」
サブネットマスク	本製品に設定する LAN 側のサブネットマスクを入力します。 ※DHCP モードが「クライアント」のときは、設定できません。 ※初期設定：「255.255.255.0」
デフォルトゲートウェイ	本製品に設定するデフォルトゲートウェイを入力します。 ※DHCP モードが「クライアント」のときは、設定できません。 ※初期設定： 「ルータ ： 0.0.0.0」 「AP ： 192.168.1.250」 「コンバータ ： 192.168.1.249」
DHCP モード	DHCP サーバ機能の使用を選びます。 自動：DHCP 機能の有効、無効を自動的に切り替えます。 サーバ：DHCP サーバとして起動します。 クライアント：別の DHCP サーバから IP アドレスを取得します。 無効：DHCP サーバ機能を無効にします。 ※初期設定：「自動」
DHCP リース期間（分）	DHCP サーバ機能が有効のとき、本製品が割り当てる IP アドレスを使用する時間を設定します。設定した時間を越えると、新たに IP アドレスを割り当てます。 ※DHCP モードが「クライアント」、「無効」のときは、設定できません。 ※初期設定：「480」分
IP アドレス範囲	DHCP サーバ機能が有効のとき、本製品が割り当てる IP アドレスの範囲を設定します。 ※DHCP モードが「クライアント」、「無効」のときは、設定できません。 ※初期設定： 「ルータ ： 192.168.111.100 ～ 192.168.111.200」 「AP/コンバータ ： 192.168.1.100 ～ 192.168.1.200」

クライアントを表示する	DHCP モードが「サーバ」のとき、[クライアントを表示する]をクリックすると、接続中の DHCP クライアント一覧が表示されます。 ※DHCP モードが「自動」のときは、表示されません。
固定 IP アドレスの設定	DHCP モードが「サーバ」のとき、[固定 IP アドレスの設定]をクリックすると、固定 DHCP の設定を行えます。 登録した MAC アドレスの機器には、常に同じ IP アドレスが割り当てられます。 ※DHCP モードが「自動」のときは、表示されません。 ※設定方法は、【固定 IP アドレスの設定】を参照。 ※最大 20 個まで登録できます。

【固定 IP アドレスの設定】

(1)「固定 IP アドレスを有効にする」にチェックを入れます。

(2)固定 DHCP アドレスで使用する端末の IP アドレスを入力します。

(3)固定 DHCP アドレスで使用する端末の MAC アドレスを入力します。

　※入力方法　：　「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。

(4)端末名をコメントに入力します。

(5)[適用]をクリックします。

6.3.2　ルーティング設定

ここでは、ルーティングテーブルの設定方法を説明します。
動的ルーティング、静的ルーティングの設定ができます。
※このメニューはルータモードで動作しているときのみ表示されます。

■動的ルーティング

ここでは、動的ルーティングの設定方法を説明します。
本製品は、動的ルーティングのプロトコルとして RIP1、RIP2 に対応しています。

1.　(1)[ネットワーク]をクリックします。
　　(2)[ルーティング]をクリックします。
　　※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 各項目を設定します。

(1)「動的ルーティングを有効にする」にチェックを入れます。

(2)「無効」を選択します。

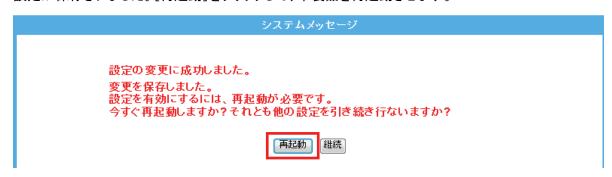
(3)本製品が送信する RIP の種類を設定します。

(4)本製品が受信する RIP の種類を設定します。

(5)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

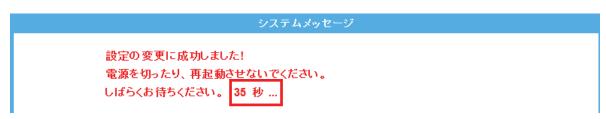
項目名	動作
NAT	NAT の「有効」/「無効」を選びます。 ※通常はルータの機能を使用する為、「無効」に設定します。 ※初期設定:「有効」
送信	本製品が送信する RIP の種類を設定します。 「RIP1」:RIPv1 によるルート情報の送信を行います。 「RIP2」:RIPv2 によるルート情報の送信を行います。 ※初期設定:「無効」
受信	本製品が受信する RIP の種類を設定します。 「RIP1」:RIPv1 によるルート情報の受信を行います。 「RIP2」:RIPv2 によるルート情報の受信を行います。 ※初期設定:「無効」

3.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5.　設定画面に戻ります。。

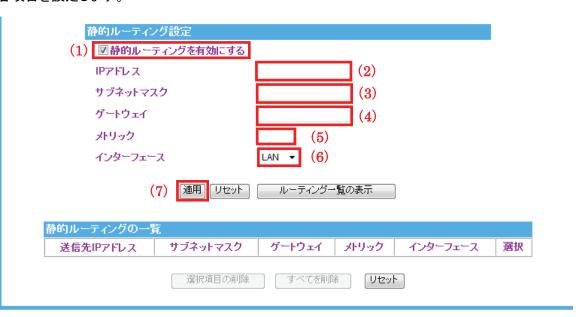
画面右上の をクリックして、画面を閉じてください。

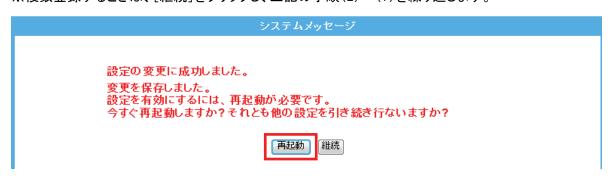
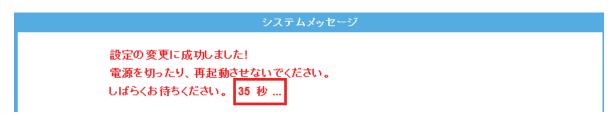
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

■静的ルーティング

静的ルーティングの設定方法を説明します。
LAN 側または WAN 側の設定した IP アドレスを持つ機器とのみ通信をおこないます。
※最大 10 個まで設定できます。

1. (1)[ネットワーク]をクリックします。
   (2)[ルーティング]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 各項目を設定します。

(1) 「静的ルーティングを有効にする」にチェックを入れます。
(2) 送信先ネットワークの IP アドレスを入力します。
(3) 送信先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
(4) 送信先のゲートウェイを入力します。
(5) 送信先のメトリック数を 1～15 の間の値で入力します。
(6) 「LAN」を選びます。
(7) [適用]をクリックします。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。
※複数登録するときは、[継続]をクリックし、上記の手順(2)～(7)を繰り返します。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

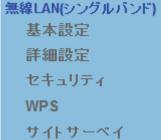
各設定項目内容は以下の通りです。

<table>
<tr><th>項目</th><th>動作</th></tr>
<tr><td>メトリック</td><td>ルーティングテーブルのメールトリック(優先順位)を入力します。
番号の若いメトリックのルーティングが優先的に処理されます。</td></tr>
<tr><td>インターフェース</td><td>LAN 側へのルーティングを設定するときは「LAN」を選びます。
WAN 側へのルーティングを設定するときは「WAN」を選びます。
※一般のブロードバンド回線では使用しません。動作についてはサポート対象外とさせていただきます。</td></tr>
<tr><td>ルーティング一覧の表示</td><td>登録されたルーティング一覧が表示されます。
ルーティング一覧
設定済みのルーティング一覧を表示します。
ルーティング一覧
<table>
<tr><th>送信先</th><th>ゲートウェイ</th><th>サブネットマスク</th><th>メトリック</th><th>インターフェース</th><th>タイプ</th></tr>
<tr><td>239.255.255.250</td><td>0.0.0.0</td><td>255.255.255.255</td><td>0</td><td>LAN</td><td>動的</td></tr>
<tr><td>172.1.1.0</td><td>0.0.0.0</td><td>255.255.255.0</td><td>0</td><td>WAN</td><td>動的</td></tr>
<tr><td>192.168.111.0</td><td>0.0.0.0</td><td>255.255.255.0</td><td>0</td><td>LAN</td><td>動的</td></tr>
<tr><td>224.0.0.0</td><td>0.0.0.0</td><td>240.0.0.0</td><td>0</td><td>LAN</td><td>動的</td></tr>
<tr><td>0.0.0.0</td><td>172.1.1.254</td><td>0.0.0.0</td><td>0</td><td>WAN</td><td>動的</td></tr>
</table>
更新 閉じる</td></tr>
<tr><td>選択項目の削除</td><td>「静的ルーティングの一覧」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。「設定の変更に成功しました。」と表示されますので、[再起動]をクリックします。</td></tr>
<tr><td>すべてを削除</td><td>すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。「設定の変更に成功しました。」と表示されますので、[再起動]をクリックします。</td></tr>
</table>

6.4 無線 LAN 関連の設定

ここでは、無線 LAN 関連の設定方法を説明します。

無線 LAN 画面には、「基本設定」、「詳細設定」、「セキュリティ」、「アクセスコントロール」、「WDS」、「WPS」、「グリーン AP」、「サイトサーベイ」のメニューがあり、それぞれ左側のメニューから選ぶことができます。
※ルータ・AP モードのときは、「サイトサーベイ」は設定できません。
※コンバータモードのときは、「アクセスコントロール」、「WDS」、「グリーン AP」は設定できません。

※ルータ・AP モード

※コンバータモード

各設定については、以下の説明を参照してください。

6.4.1 無線 LAN 通信モード

ここでは、無線 LAN の通信モード設定を説明します。

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[無線 LAN 通信モード]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 無線 LAN 通信モードを選びます。

(1) 「シングルバンド」または「デュアルバンド」を選びます。
　※コンバータモードのときは、「シングルバンド」のみです。
(2) シングルバンドのときは、「2.4GHz」または「5GHz」のどちらかを選びます。
(3) [適用]をクリックします。

項目	動作
シングルバンド	2.4GHzまたは 5GHz のどちらか一方を選んで使用します。 最大で 300Mbps(理論値)の通信が可能です。
デュアルバンド	2.4GHzと 5GHz を同時に使用します。 それぞれ最大で 150Mbps(理論値)の通信が可能です。

3. 設定が保存されました。本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

4. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.4.2 基本設定

ここでは、ルータモード、AP モードでの無線 LAN の基本設定を説明します。
（無線の「チャンネル」を変更するときは、本項より設定を行ってください。）

注意： 本項で説明している無線 LAN 機能の基本設定内容は、全ての SSID で共通となります。SSID ごとに異なる設定はできません。

1. （1）[無線 LAN]をクリックします。
   （2）[無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. [基本設定]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[基本設定]をクリックしてください。

3.　必要に応じて各項目を設定します。設定後、[適用]をクリックしてください。

無線基本設定 - 無線LAN1

無線の基本設定をします。

無線基本設定

無線機能を無効にする

無線モード	5 GHz (A+N)
APモード	AP　仮想AP
ネットワークタイプ	インフラストラクチャ
SSID	ap-pcA-●●●●●●
チャンネル幅	40MHz
チャンネル	36
SSIDの通知	有効
WMM	有効
伝送速度	自動
関連クライアント	接続機器の表示

適用　リセット

4.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

5.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

6.　設定画面に戻ります。。

画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
無線機能を無効にする	チェックを入れると無線が無効になります。 **※無効にすると無線 LAN 接続不可になりますのでご注意ください。** ※初期設定:「有効」
無線モード	無線モードを選びます。 【5GHz のとき】 「5GHz(A)」:IEEE802.11a のみで通信します。 「5GHz(N)」:IEEE802.11n のみで通信します。 「5GHz(A+N)」:IEEE802.11 a および IEEE802.11n で通信します。 通常は、ここを選びます。 ※初期設定:「5GHz(A+N)」 【2.4GHz のとき】 「2.4GHz(B)」:IEEE802.11b のみで通信します。 「2.4GHz(G)」:IEEE802.11g のみで通信します。 「2.4GHz(N)」:IEEE802.11n のみで通信します。 「2.4GHz(B+G)」:IEEE802.11b および IEEE802.11g で通信します。 「2.4GHz(G+N)」:IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 「2.4GHz(B+G+N)」:IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11n で 通信します。通常は、ここを選びます。 ※初期設定:「2.4GHz(B+G+N)」
AP モード	無線 LAN アクセスポイントのモードを選びます。 「AP」:無線 LAN アクセスポイントとして通信します。 「WDS」:WDS モードで通信します。 「AP＋WDS」:無線 LAN アクセスポイント、WDS 両方使用可能になります。 ※初期設定:「AP」
SSID	無線 LAN で特定のネットワークを指定するためのグループ名のことを指し、同一の SSID の無線 LAN 機器同士で通信します。 ※半角英数字で 32 文字まで入力できます。 **※SSID は必ず控えてください。** ※初期設定: 「5GHz : ap-pcA-●●●●●●」 「2.4GHz : ap-pcG-●●●●●●」 ●部分は製品ごとに異なります。

仮想 AP	マルチ SSID を設定します。 仮想 AP 機能を使用することで、最大 6 つのアクセスポイントを設定することができます。 ※(5GHz)「SSID＋AP1～AP 2」、(2.4GHz)「SSID＋AP1～AP2」の計 6 つ ［仮想 AP］をクリックすると、仮想 AP 一覧画面が表示されますので、この画面で AP1～AP 2 の設定を行います。 ※設定方法は、「5.3 マルチ SSID を設定する」を参照してください。 ※初期設定: 「5GHz : ap-tvA-●●●●●●」 「2.4GHz : ap-gameG-●●●●●●」 ●部分は製品ごとに異なります。
チャンネル幅	周波数帯域幅を選びます。 「20MHz」:20MHzの帯域で通信します。 「40MHz」:40MHzの帯域で通信します。「20MHz」を選んだときよりも高速に通信します。 ※「5GHz(A)」、「2.4GHz(B)」、「2.4GHz(G)」、「2.4GHz(B+G)」のときは表示されません。 ※初期設定:「40MHz」
チャンネル	近隣との電波干渉があるときに適当なチャンネルを選択してください。 【5GHz のとき】 W52、W53、W56 で利用する際は、チャンネルを「Auto(DFS)」を選びます。 W52 のチャンネルを指定したいときは、「36」、「40」、「44」、「48」から選びます。 ※W53、W56 は、気象レーダなどが使用している周波数帯と干渉を防ぐために、自動でチャンネルを設定する必要があります。 W53、W56 の周波数で利用するときは、「Auto(DFS)」を選んでください。 ※初期設定:「36」 【2.4GHz のとき】 チャンネルを「1」～「13」の範囲で選びます。 ※初期設定:「Auto」
SSID の通知	SSID を第三者に見られたくないとき、「無効」にします。 不正アクセスを防止することができます。 ※初期設定:「有効」
WMM	IEEE 802.11 でのワイヤレスネットワークを特徴とする基本的な品質を提供します。 「無線モード」で「5GHz(N)」、「5GHz(A+N)」、「2.4GHz(N)」、「2.4GHz(G+N)」、「2.4GHz(B+G+N)」が選択され IEEE802.11n で通信するときは、「WMM」は強制的に「有効」になります。 ※初期設定:「有効」

伝送速度	伝送速度に制限を掛けるとき、1M～54M、MCS0～MCS15 の範囲で設定します。 通常は「自動」にします。 ※初期設定：「自動」
関連クライアント	[接続機器の表示]をクリックすると、接続中の無線 LAN クライアント一覧のウィンドウが開きます。無線 LAN 接続されている機器を表示します。 接続中の無線クライアント一覧 - 無線LAN1 無線クライアントとの通信情報を表示します。 無線クライアント一覧

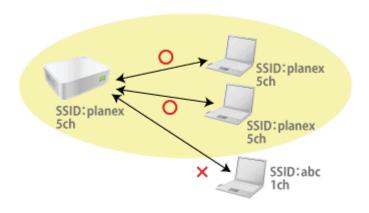
MACアドレス	APモード	送信パケット	受信パケット	Txレート(Mbps)	省電力	制限時間(秒)
None	---	---	---	---	---	---

更新 閉じる

ワンポイント

チャンネルについて

同一の SSID 内で無線通信するには、チャンネルを同じにする必要があります。本製品のマルチ SSID 機能では、1 つのチャンネルを共通で使用します。

複数の無線 LAN アクセスポイントを設置して複数の SSID（無線 LAN グループ）を構成する場合は、アクセスポイント毎に別のチャンネルを設定しますが、アクセスポイント間の電波の干渉をさけるために、 それぞれのチャンネルは 1／6／11 など 5ch 程度離れたチャンネルに設定する必要があります。

6.4.3 基本設定(コンバータ)

ここでは、コンバータモードのときの基本設定を説明します。
(無線の「チャンネル」を変更するときは、本項より設定を行ってください)

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[基本設定]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

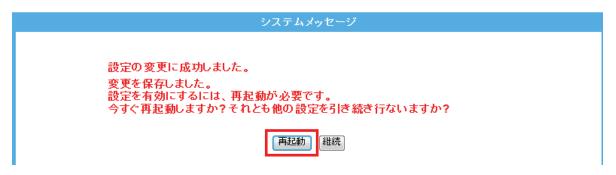
2. 必要に応じて各項目を設定します。設定後、[適用]をクリックしてください。

無線基本設定

無線の基本設定をします。

無線基本設定

☐ 無線機能を無効にする

無線モード	2.4 GHz (B+G+N)
APモード	Client　仮想AP
ネットワークタイプ	インフラストラクチャ
SSID	ap-pcG-●●●●●●
チャンネル幅	40MHz
チャンネル	Auto
SSIDの通知	有効
WMM	有効
伝送速度	自動
関連クライアント	接続機器の表示

適用　リセット

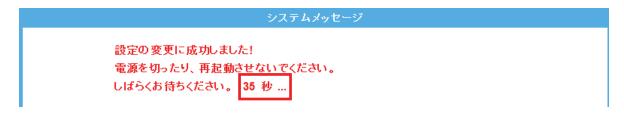
3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。

画面右上の をクリックして、画面を閉じてください。

※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

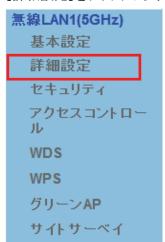
以上で設定の完了です。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
無線機能を無効にする	チェックを入れると無線が無効になります。 ※無効にすると無線 LAN 接続不可になりますのでご注意ください。 ※初期設定:「有効」
無線モード	無線モードを選びます。 「2.4GHz(B)」:IEEE802.11b のみで通信します。 「2.4GHz(G)」:IEEE802.11g のみで通信します。 「2.4GHz(N)」:IEEE802.11n のみで通信します。 「2.4GHz(B+G)」:IEEE802.11b および IEEE802.11g で通信します。 「2.4GHz(G+N)」:IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 「2.4GHz(B+G+N)」:IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。通常は、ここを選びます。 ※初期設定:「2.4GHz(B+G+N)」
AP モード	※コンバータモードのときは設定できません。
SSID	接続先の SSID が表示されます。 ※初期設定:「ap-pcG-●●●●●●」 ●部分は製品ごとに異なります。
仮想 AP	※コンバータモードのときは設定できません。
チャンネル幅	※コンバータモードのときは設定できません。
チャンネル	※コンバータモードのときは設定できません。
SSID の通知	SSID を第三者に見られたくないとき、「無効」にします。 不正アクセスを防止することができます。 ※初期設定:「有効」
WMM	IEEE 802.11 でのワイヤレスネットワークを特徴とする基本的な品質を提供します。 「無線モード」で「5GHz(N)」、「5GHz(A+N)」、「2.4GHz(N)」、「2.4GHz(G+N)」、「2.4GHz(B+G+N)」が選択され IEEE802.11n で通信するときは、「WMM」は強制的に「有効」になります。 ※初期設定:「有効」
伝送速度	伝送速度に制限を掛けるとき、1M～54M、MCS0～MCS15 の範囲で設定します。通常は「自動」にします。 ※初期設定:「Auto」
関連クライアント	※コンバータモードのときは表示されません。

6.4.4 詳細設定

ここでは、無線 LAN の詳細設定を説明します。
※本設定は通常変更する必要はありません。

1. (1) [無線 LAN]をクリックします。
   (2) [無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

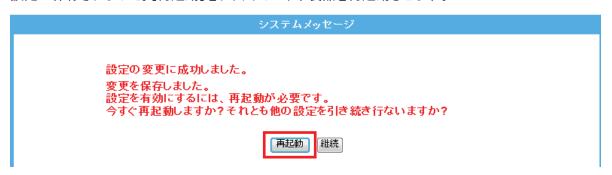
2. [詳細設定]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[詳細設定]をクリックしてください。

3.　必要に応じて各項目を設定します。設定後、[適用]をクリックしてください。

無線詳細設定 - 無線LAN2

これらの設定は、無線LANに関して十分な知識を備えて、APにおよぼす影響を踏まえたうえで設定変更を行ってください。通常、設定の変更は必要ありません。

無線詳細設定

項目	設定
フラグメントしきい値	2346 (256-2346)
RTSしきい値	2347 (0-2347)
ビーコン間隔	100 (20-1024 ms)
プリアンブルタイプ	◉ Long Preamble ○ Short Preamble
IAPP	◉ 有効 ○ 無効
Protection	○ 有効 ◉ 無効
Aggregation	◉ 有効 ○ 無効
Short GI	◉ 有効 ○ 無効
WLAN Partition	○ 有効 ◉ 無効
STBC	○ 有効 ◉ 無効
20/40MHz Coexist	○ 有効 ◉ 無効
TX Beamforming	○ 有効 ◉ 無効
RF Output Power	◉ 100% ○ 70% ○ 50% ○ 35% ○ 15%

[適用] [リセット]

4.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

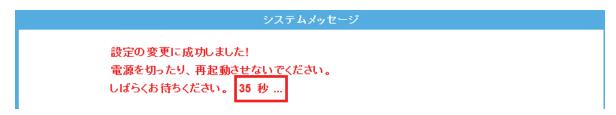
5.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

6.　設定画面に戻ります。。

画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
フラグメントしきい値	フラグメントしきい値を 256～2346 の間で設定します。 設定したサイズよりも大きなパケットを送信するとき、パケットを分割して、送信します。 ※通常は初期設定で使用します。 ※初期設定:「2346」
RTS しきい値	RTS しきい値を 0～2347 の間で設定します。 RTSしきい値とは、本製品が無線LAN機器へパケットを送信する前に、同一ネットワーク内（SSID が同じ無線 LAN 機器）へ送信する RTS（Request To Send:送信要求）信号を送信するかどうかを決めるための境界値（＝しきい値）のことです。 ※通常は初期設定で使用します。 ※初期設定:「2347」
ビーコン間隔	ビーコン間隔を 20～1024 の間で設定します。 ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。 ビーコン間隔を小さくすると、クライアントの接続効率が上がりますが、通信効率が下がります。 ※通常は初期設定で使用します。 ※初期設定:「100」
プリアンブルタイプ	「Long Preamble」、「Short Preamble」から選びます。 「Short Preamble」のとき、無線 LAN 間の通信速度が速くなりますが、Short Preamble に対応していないクライアントのとき、通信できなくなる恐れがあります。この場合は、「Long Preamble」に設定してください。 ※「5GHz」のときは表示されません。 ※初期設定:「Long Preamble」
IAPP	複数の無線 AP をまたぐ場合、同一の IP アドレスを維持します。 通常は「有効」のまま使用します。 ※初期設定:「有効」
Protection	無線 LAN 子機との通信に RTS/CTS フロー制御を行う場合有効にします。 接続する無線 LAN 子機が少ない場合は、「無効」、多い場合は、「有効」にすると、通信速度が向上する場合があります。 ※初期設定:「無効」
Aggregation	複数のパケット群のグループ化と帯域の増加のための送信を有効化します。 ※初期設定:「有効」
Short GI	通信を高速化する Short GI 機能を有効にします。 ※初期設定:「有効」です。

WLAN Partition	無線 LAN の接続機器同士の通信を遮断します。 「有効」にした場合、ルータに接続されたプリンタなど、利用ができなくなります。 ※初期設定:「無効」
STBC	通信路情報(CSI)を必要としない、時空間ブロック符号(STBC)を有効にします。 ※初期設定:「無効」
20/40MHz Coexist	20/40MHz 共存方式を設定にします。 「有効」にすると、「20MHz」と「40MHz」 を混在させます。 通常は「無効」のまま使用します。 ※「5GHz」のときは表示されません。 ※初期設定:「無効」
TX Beamforming	通信品質を向上させます。 ※初期設定:「無効」
RF Output Power	出力強度を設定します。 「100%」、「70%」、「50%」、「35%」、「15%」から選びます。 ※初期設定:「100%」

6.4.5 アクセスコントロールの設定

ここでは、アクセスコントロールの設定方法を説明します。
無線による本製品への接続を制限します。アクセスポリシーが「許可」の場合、登録機器のみ接続できます。
「拒否」の場合、登録機器は本製品へ接続できません。
※最大 20 個まで設定できます。

1. (1) [無線 LAN]をクリックします。
   (2) [無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. [アクセスコントロール]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[アクセスコントロール]をクリックしてください。

3.　必要に応じて各項目を設定します。

(1)「許可」または「拒否」から選びます。

(2)制御する機器の MAC アドレスを入力します。

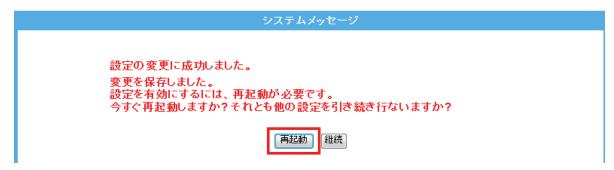
※入力方法　:　「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。

(3)必要に応じてコメントを入力します。(最大文字数:20)

(4)[適用]をクリックします。

4.　「選択した設定を適用すると WPS は無効になります!よろしいですか」と表示されるので、[OK]をクリックします。

5.　設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

※複数登録するときは、[継続]をクリックし、上記の手順(1)～(4)を繰り返します。

6. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

7. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
アクセスポリシー	無効:アクセスコントロールが無効になります。 拒否:登録機器は無線接続が不可になります。 許可:登録機器のみ無線接続が可能になります。 ※初期設定:「無効」
MAC アドレス	登録する機器の MAC アドレスを入力します。 ※入力方法:「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。
アクセスコントロール一覧	登録した MAC アドレスとコメントの一覧が表示されます。
選択項目の削除	「アクセスコントロール一覧」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[選択項目の削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。「設定の変更に成功しました。」と表示されますので、[再起動]をクリックします。
すべてを削除	すべてを消去するときは、[すべてを削除]をクリックします。確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。「設定の変更に成功しました。」と表示されますので、[再起動]をクリックします。

6.4.6 WPS の設定

ここでは、ルータモード、AP モードの WPS 設定を説明します。
WPS 機能に対応している機器との無線設定が簡単にできます。

※ WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、無線 LAN 関連の業界団体「Wi-Fi アライアンス」が策定した無線 LAN の簡単設定規格です。WPS 対応機器と組み合わせて無線 LAN の設定や暗号化を簡単に行うことができる機能です。

接続方法は、「WPS ボタンを使って WPS 接続する」、「画面を使って WPS 接続する」、「PIN コードを使って接続する」の三つになります。

- 「WPS ボタンを使って WPS 接続する」をするときは、(P145)をご参照ください。
- 「画面を使って WPS 接続する」をするときは、(P147)をご参照ください。
- 「PIN コードを使って接続する」をするときは、(P150)をご参照ください。

■ WPS ボタンを使って WPS 接続する

ここでは、WPS ボタンを使って WPS 接続する方法を説明します。

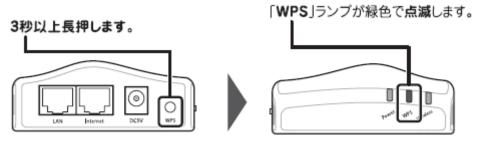
⇒ 「ルータ・アクセスポイント設定ガイド STEP3」にも本設定の説明がありますので、合わせて参照してください。

本製品本体の WPS ボタンを使って、簡単に無線 LAN 設定を行うことができます。
ただし、WPS 機能を使って設定するためには、無線 LAN ルータ(親機)と無線 LAN アダプタ(子機)がどちらとも WPS に対応している必要があります。

ご注意

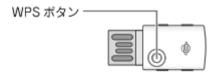
※WPS 機能を使用すると、本製品の無線 LAN セキュリティの初期設定が WPS 機能により書き換わるため、先に設定した機器は無線 LAN 設定をやり直す必要があります。
※1 台のパソコンで無線 LAN 接続にご使用ください。
※複数台の機器を無線 LAN 接続する場合には、手動にて「SSID：ap-pcA-●●●●●●」または「SSID：ap-pcG-●●●●●●」、「キー：12345678」をそれぞれ設定して頂く方法をお勧めします。
※本製品の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」、または本ユーザーズ・マニュアルの「インターネット接続方法」の設定を済ませ、本製品をインターネットに接続できる状態にしてください。
※無線 LAN アダプタをパソコンにインストールしておいてください。

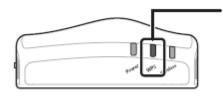
1. 本製品とWPS 対応の無線 LAN アダプタを装着したパソコンを用意し、本製品とパソコンの電源がオンになっていることを確認します。

2. 本製品背面の「WPS」ボタンを 3 秒以上長押しします。「WPS」ランプが緑色で点滅します。

※2 分以内に次の手順を行ってください。

3. 無線 LAN 子機の WPS ボタン、またはユーティリティ上の WPS ボタンを押します。

※「WPS ボタン」の有無や位置については、機器ごとに異なります。
詳細は各無線 LAN 子機の取扱説明書をご確認ください。

例）

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

4. 接続が確立すると、「WPS」ランプが点灯→消灯し、再び点灯します。

①接続が確立すると、「WPS」ランプが点灯します。
②「WPS」ランプが消灯し、再び点灯します。

ワンポイント

- WPS ランプが点滅のときは、まだ接続されていません。
- WPS ランプが点滅しないときは、再度 WPS ボタンを押してください。

5. WEB ブラウザを起動して、インターネットに接続されることを確認します。

ワンポイント

- セキュリティ設定内容（暗号キーなど）は、WPS 機能によって新しく設定されます。

■画面を使って WPS 接続する

ここでは、画面から WPS 接続する方法を説明します。

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。

   (2)[無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。

   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。

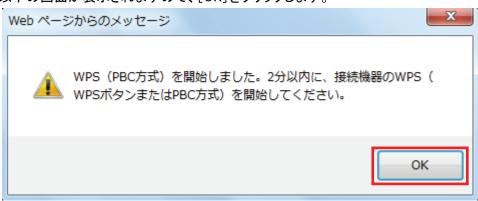
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。

   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. [WPS]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[WPS]をクリックしてください。

3.　[PBC 開始]をクリックします。

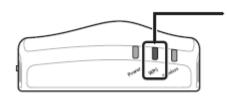
4.　以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

5.　無線 LAN 子機の WPS ボタンを押します。

※「WPS ボタン」の有無や位置については、機器ごとに異なります。

詳細は各無線 LAN 子機の取扱説明書をご確認ください。

例）

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

6.　接続が確立すると､｢WPS｣ランプが点灯→消灯し、再び点灯します。

①接続が確立すると､｢WPS｣ランプが点灯します。
②｢WPS｣ランプが消灯し､再び点灯します。

7.　画面右上の をクリックして、設定画面を閉じてください。

8.　WEB ブラウザを起動して、インターネットに接続されることを確認します。

以上で設定の完了です。

■PIN コードを使って接続する

ここでは、相手側機器の PIN コードを入力する方法で説明します。

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. [WPS]をクリックします。

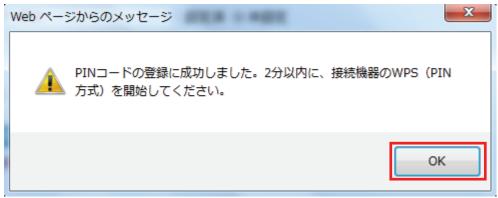
※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[WPS]をクリックしてください。

3.　(1)「接続機器の PIN コード」欄に接続先の PIN コードを入力します。

(2) [PIN 開始]をクリックします。

※接続機器の PIN コードについては、お使いの機種の取扱説明書をご確認ください。

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

4.　以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

5.　子機側の PIN コード接続を開始します。

6.　接続が確立すると、「WPS」ランプが点灯します。

6.　画面右上の ✕ をクリックして、画面を閉じてください。

7.　WEB ブラウザを起動して、インターネットに接続されることを確認します。

以上で設定の完了です。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
PIN コード	本製品の PIN コードです。 相手側機器との接続に PIN コードの登録が必要なときは、このコードを指定します。

6.4.7 WPS の設定（コンバータ）

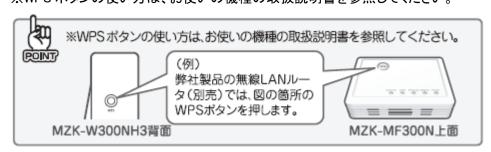
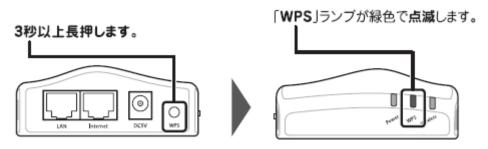
本製品をコンバータとして、ゲーム機や映像機器、パソコンなどと無線 LAN で接続する手順を説明します。
※複数の本製品を使用するときは、先に重複しない IP アドレスを変更してください。

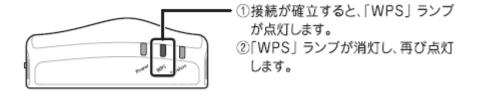
⇒ 「コンバータ設定ガイド STEP2（WPS ボタン編）」にも本設定の説明がありますので合わせて参照してください。

- 「WPS ボタンを使って WPS 接続する」をするときは、（P154）をご参照ください。
- 「画面を使って WPS 接続する」をするときは、（P155）をご参照ください。
- 「PIN コードを使って接続する」をするときは、（P157）をご参照ください。

■ WPS ボタンを使って WPS 接続する

ここでは、WPS ボタンを使って WPS 接続する方法を説明します。

1. 無線 LAN ルータ（親機）の WPS ボタンを押し、2 分以内に次の操作を行います。
   ※本手順では、無線 LAN ルータが WPS に対応している必要があります。
   ※WPS ボタンの使い方は、お使いの機種の取扱説明書を参照してください。

2. 本製品背面の「WPS」ボタンを 3 秒以上名が押しします。「WPS」ランプが緑色で点滅します。

※2 分以内に次の手順を行ってください。

3. 接続が確立すると、「WPS」ランプが点灯→消灯し、再び点灯します。

ワンポイント

- WPS ランプが点灯のときは、まだ接続されていません。
- WPS ランプが点灯しないときは、再度 WPS ボタンを押してください。

4. 本製品に接続している AC アダプタを取り外します。

以上で接続は完了です。

■ 画面を使って WPS 接続する

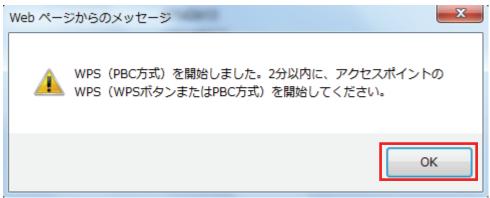
ここでは、画面から WPS 接続する方法を説明します。

1.　（1）[無線 LAN]をクリックします。

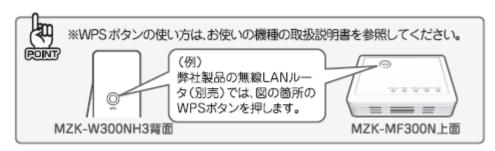
（2）[WPS]をクリックします。

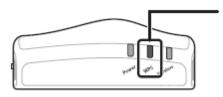
※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　[PBC 開始]をクリックします。

3.　以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

4.　無線 LAN 親機の WPS ボタンを押します。

※「WPS ボタン」の有無や位置については、機器ごとに異なります。
詳細はお使いの機種の取扱説明書を参照してください。

例）

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

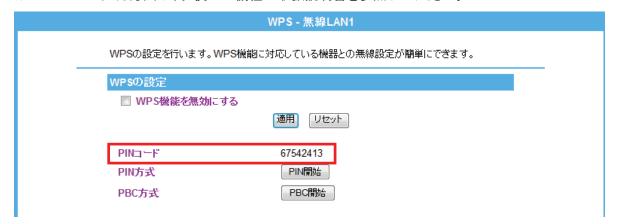
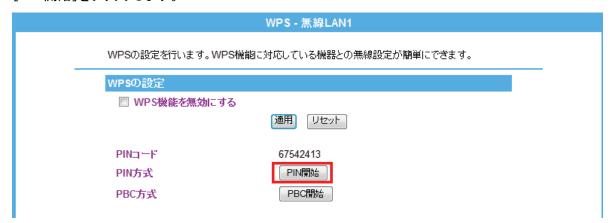
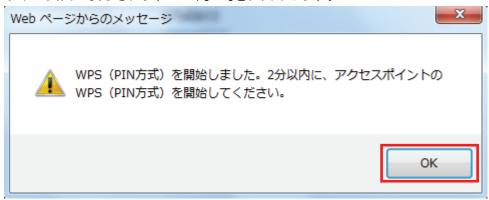
5.　接続が確立すると、「WPS」ランプが点灯→消灯し、再び点灯します。

6.　本製品に接続している AC アダプタを取り外し、ゲーム機やネットワーク対応テレビに接続して、インターネット接続の確認を行います。

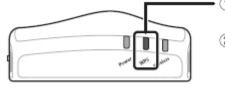
以上で設定の完了です。

■PIN コードを使って接続する

ここでは、相手側機器で PIN コードを入力する方法を説明します。

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[WPS]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 本製品の PIN コードを親機の設定画面で入力します。
   ※PIN コードの入力方法は、お使いの機種の取扱説明書を参照してください。

3.　[PIN 開始]をクリックします。

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

4.　以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

5.　親機側の PIN コード接続を開始します。

6.　接続が確立すると、「WPS」ランプが点灯→消灯し、再び点灯します。

6.　本製品に接続している AC アダプタを取り外します。

以上で設定の完了です。

6.4.8 グリーン AP の設定

ここでは、グリーン AP の設定方法を説明します。
指定した時間内のみ無線機能が有効になります。
※機能を有効にする前に本製品の時刻設定を行ってください。(時刻設定は、「6.5.2 時刻設定」を参照ください。)
※最大 10 個設定できます。

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[無線 LAN1 (5GHz)]をクリックしてください。
   ※2.4GHz 帯のセキュリティを変更したいときは、[無線 LAN2 (2.4GHz)]をクリックしてください。
   ※シングルバンドのときは、次の手順に進みます。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. [グリーン AP]をクリックします。

※2.4GHz 帯のときは、「無線 LAN2(2.4GHz)」のメニューの[グリーン AP]をクリックしてください。

3. 各項目を設定します。

(1)「グリーン AP を有効にする」にチェックを入れます。

※初期設定:「無効」

(2)曜日・時間帯を指定します。

(3)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
有効	選択した時間帯のグリーン AP 機能を有効にします。
日	日～土:選択した曜日に無線機能が有効になります。 毎日:無線機能が毎日有効になります。
開始/終了	開始:開始時刻を指定します。 終了:終了時刻を指定します。 ※開始時刻より前の時刻を終了時刻として設定することができません。 例)開始:22 時 00 分、終了:02 時 00 分

4. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました。
変更を保存しました。
設定を有効にするには、再起動が必要です。
今すぐ再起動しますか？それとも他の設定を引き続き行ないますか？

再起動 継続

5. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

6. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

グリーン AP の設定例は以下を参考にしてください。

毎日、9 時 00 分～18 時 00 分で無線機能を有効にしたいとき。

有効 ：チェックを入れます
日 ：毎日を選びます
開始 ：9 時 00 分
終了 ：18 時 00 分

6.4.9 サイトサーベイ

ここでは、サイトサーベイによる無線 LAN の設定方法を説明します。
※サイトサーベイの設定は、コンバータモードのみとなります。
※ルータモード、アクセスポイントモードでは近くのアクセスポイントの SSID を表示します。

本手順をはじめる前に、接続先の無線 LAN ルータ(または無線 LAN アクセスポイント)のセキュリティ情報を確かめて、以下の表に記入します。

	名称	接続先のセキュリティ情報
(イ)	SSID(接続名)	
(ロ)	認証タイプ	□ WEP　□ WPA　□ WPA2
(ハ)	キーの長さ	□ 64-bit　□ 128-bit　※表の(ロ)が「WEP」のとき
(ニ)	キーフォーマット	□ 16 進数(Hex)　□ 文字列(ASCII・パスフレーズ)
(ホ)	暗号化キー	

1. (1)[無線 LAN]をクリックします。
   (2)[サイトサーベイ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 設定します。

サイトサーベイ - 無線LAN1

接続可能なAPのSSIDを表示します。接続先のSSIDが表示されない場合は、[更新]ボタンをクリックしてください。

[更新]

AP一覧

SSID	BSSID	チャンネル	タイプ	暗号化	強度	選択
[illegible]	[illegible]	2 (B+G+N)	AP	WPA-PSK/WPA2-PSK	72	◉ (1)
[illegible]	[illegible]	2 (B+G+N)	AP	WEP	72	○
[illegible]	[illegible]	11 (B+G)	AP	WEP	24	○

(2)

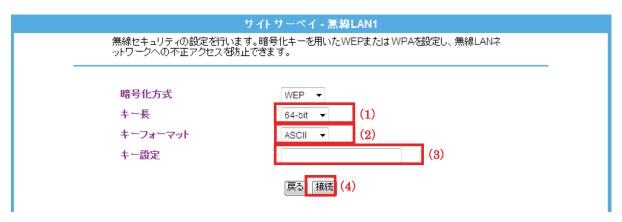
(1)冒頭で記入した表を参照し、(イ)に記入した SSID(接続名)を「AP 一覧」から選びます。

(2)[次へ]をクリックします。

※SSID(接続名)が表示されないときは、[更新]をクリックして、再検索してください。

※上記を行っても SSID(接続名)が表示されないときは、無線 LAN ルータの電源が入っているか、または調べた SSID(接続名)に誤りがないか確認してください。

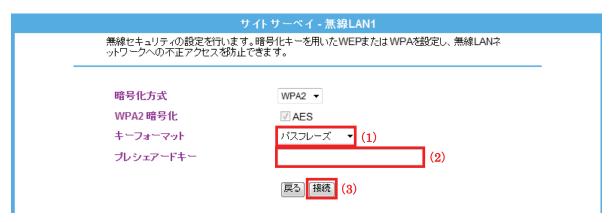
3.　冒頭で記入した接続先の無線セキュリティ情報に合わせて、設定を行います。

【表の（ロ）認証タイプが「WEP」のとき】

（1）「キー長」で表の（ハ）に記入したキーの長さを選びます。

（2）「キーフォーマット」で表の（ニ）に記入したキーフォーマットを選びます。

（3）「キー設定」で表の（ホ）に記入した暗号化キーを入力します。

（4）［接続］をクリックします。

【表の（ロ）認証タイプが「WPA」／「WPA2」のとき】

（1）「キーフォーマット」で表の（ニ）に記入したキーフォーマットを選びます。

（2）「プレシェアードキー」で表の（ホ）に記入した暗号化キーを入力します。

（3）［接続］をクリックします。

4. 「Please wait…」と表示されますので、しばらく待ちます。

サイトサーベイ - 無線LAN1

Please wait...

5. WEB ブラウザが「表示できません」などと表示されますが、画面右上の をクリックし、WEB ブラウザを閉じます。

以上で設定の完了です。

AC アダプタと LAN ケーブルを一旦取り外し、ゲーム機やネットワークテレビに本製品を接続してください。

6.5 システム管理関連

ここでは、システム管理関連の設定方法を説明します。

管理画面には、「ユーザ設定」、「時刻設定」、「ダイナミック DNS」、「ファームウェア更新」、「設定情報」、「統計情報」、「システムログ」、「再起動」のメニューがあり、それぞれ左側のメニューから選ぶことができます。

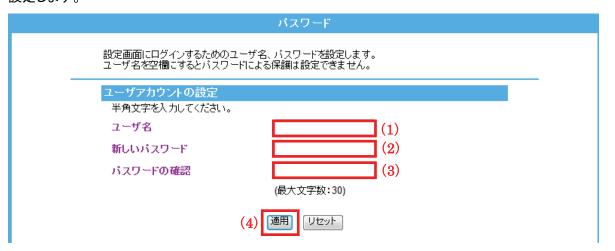
各設定については、以下の説明を参照してください。

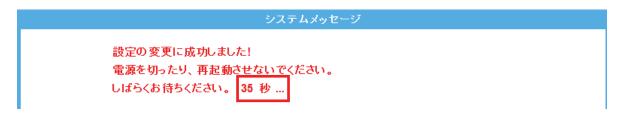
※ダイナミック DNS の設定については、「5.5 ダイナミック DNS を設定する」を参照してください。

6.5.1 ユーザ名・パスワードの変更

ここでは、設定画面にログインするためのユーザ名、パスワードを設定する方法を説明します。
※ユーザ名を空欄にするとパスワードによる保護は設定できません。

1. (1)[管理]をクリックします。
   (2)[ユーザ設定]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 設定します。

(1) ユーザ名を入力します。
　※初期設定:「admin」
(2) 新しいパスワードを入力します。(最大文字数:30)
(3) 入力間違いを防ぐ為、手順(2)と同じパスワードを入力します。
(4) [適用]を入力します。

3.　設定が保存されました。本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

4.　再起動後、ログイン画面が表示されます。
(1)変更したユーザ名を入力します。
(2)変更したパスワードを入力します。
(3)[OK]をクリックします。

5.　ログイン後、画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.5.2 時刻設定

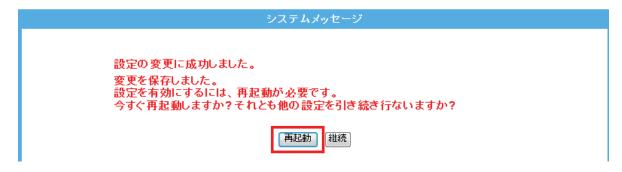
ここでは、パソコンと同期または NTP サーバを利用し、時刻の設定方法を説明します。

1. (1) [管理]をクリックします。
   (2) [時刻設定]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 設定します。設定後、[適用]をクリックしてください。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
現在の時刻	現在の時刻を手動で入力します。 [PC と同期]をチェックすると、設定用パソコンの時刻と同期します。
タイムゾーン	タイムゾーンを選びます。 ※初期設定:「(GMT＋09:00)東京」です。
NTP 機能	NTP 機能を有効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期設定:「無効」
夏時間設定	夏時間(サマータイム)を調整するときは、「有効」にチェックを入れます。 ※NTP 機能を「有効」にしないとチェックできません。 ※初期設定:「無効」
NTP サーバ	NTP サーバを設定します。 地域を選ぶか、IP アドレスやドメイン名で NTP サーバを指定する事ができます。 ※初期設定:「203.117.180.36 – アジア太平洋」です。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ
設定の変更に成功しました!
電源を切ったり、再起動させないでください。
しばらくお待ちください。 35 秒 ...

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.5.3 ファームウェア更新

ここでは、ファームウェアを更新する方法を説明します。
下記弊社のホームページより最新のファームウェアがあるときはダウンロードできます。
http://www.planex.co.jp/support/download/
あらかじめ弊社ホームページから最新のファームウェアをダウンロードし、パソコンのハードディスクなどに保存しておいてください。

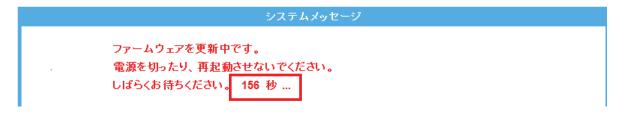
1. (1)[管理]をクリックします。
   (2)[ファームウェア更新]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　(1)[参照]をクリックして、保存した新しいファームウェアファイル指定し、[開く]をクリックします。
(2)[開始]をクリックします。

※更新中は電源を切らないでください。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
インターネット経由で更新	[開始]をクリックすると確認メッセージが出ますので、[OK]をクリックします。

3.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

4.　画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

5.　ステータス画面で更新されたファームウェアバージョンを確認します。
※ステータス画面の表示方法については「6.1.1 ステータス」を参照してください

以上で設定の完了です。

6.5.4 バックアップ／リストア

ここでは、現在の設定情報をファイルに保存したり、ファイルに保存した情報を読み込み、設定を復元したりする方法を説明します。

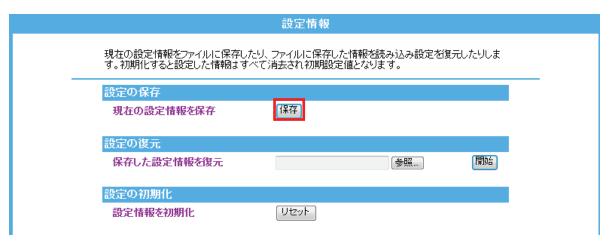
1. (1)[管理]をクリックします。

   (2)[設定情報]をクリックします。

   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

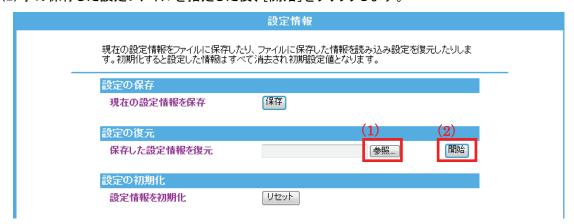
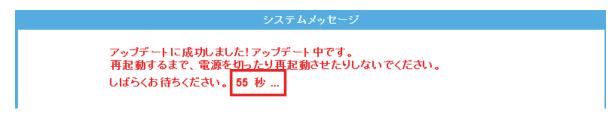
2. 設定します。

   【設定を保存するとき】

   (1)[保存]ボタンをクリックします。

(2) 以下の画面が表示されますので、[保存(S)]をクリックして設定ファイルをハードディスクなどに保存します。

【設定を復元するとき】

(1) [参照]をクリックします。

(2) 予め保存した設定ファイルを指定した後、[開始]をクリックします。

(3) 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

※「6.5.1 ユーザ名・パスワードの変更」で、ユーザ名・パスワードを変更している場合、ログイン画面が表示されます。ユーザ名/パスワードを入力し、[OK]をクリックします。

(4) 設定画面に戻ります。。

画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

※画面がエラーで表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.5.5 初期化

ここでは、本製品の初期化する方法を説明します。

※初期化すると本製品の設定内容がすべて消去されます。初期化する前に必要な情報はメモなどに控えてください。

1. (1)[管理]をクリックします。

   (2)[設定情報]をクリックします。

   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. (1)[リセット]をクリックします。

   (2)「初期化設定に戻してもよろしいですか？」表示されますので[OK]をクリックします。

3.　本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

システムメッセージ

設定情報を更新します。
更新中、電源を切ったり再起動させたりしないでください。
しばらくお待ちください。 115 秒 ...

※「6.5.1 ユーザ名・パスワードの変更」で、ユーザ名・パスワードを変更している場合、ログイン画面が表示されます。ユーザ名「Admin」、パスワードを「password」と入力し、[OK]をクリックします。

4.　設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※画面がエラーで表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.5.6 統計情報

ここでは、統計情報を確認する方法を説明します。
パケットの送受信情報を表示します。

1. (1)[管理]をクリックします。
   (2)[統計情報]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「統計情報」を確認します。

統計情報

パケットの送受信数をカウントします。

無線LAN1	
送信したパケット数	0
受信したパケット数	268

無線LAN1仮想AP1	
送信したパケット数	0
受信したパケット数	246

無線LAN2	
送信したパケット数	21
受信したパケット数	406

無線LAN2仮想AP1	
送信したパケット数	8
受信したパケット数	279

有線 LAN	
送信したパケット数	200
受信したパケット数	413

有線 WAN	
送信したパケット数	0
受信したパケット数	0

[更新]

※[更新]をクリックすると、最新の情報に更新します。

※モード、有効にしている仮想 AP によって、表示される項目が異なります。

6.5.7 システムログ

ここでは、システムログの設定方法を説明します。
本製品のシステムログ情報を表示します。

1. (1)[管理]をクリックします。
   (2)[システムログ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 設定します。

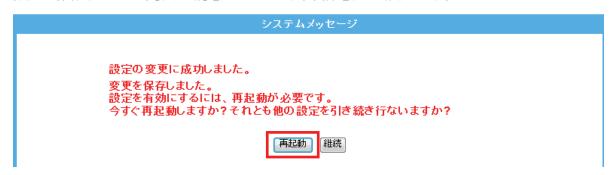
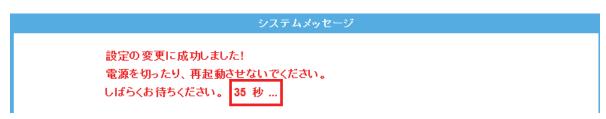
(1)「システムログ機能を有効にする」にチェックを入れます。

(2)出力したいログの項目にチェックを入れます。

(3)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
無線	本製品に接続したネットワーク内のログを出力します。
DoS	外部からのネットワーク攻撃などの不正アクセスを出力します。
リモートログを有効にする	ログを外部のログサーバなどに出力します。 ※別途ログサーバ、syslog サーバが必要になります。
ログサーバの IP アドレス	ログサーバの IP アドレスを入力します。
更新	表示を更新します。
クリア	ログを消去します。

3. 設定が保存されました。[再起動]をクリックして、本製品を再起動させます。

4. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

5. 設定画面に戻ります。。
画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。
※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で設定の完了です。

6.5.8 再起動

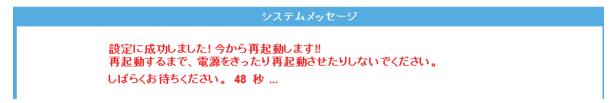
ここでは、本製品を再起動する方法を説明します。

1. (1)[管理]をクリックします。

   (2)[再起動]をクリックします。

   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. [再起動]をクリックします。

3. 本製品が再起動します。カウントが「0」になるまでお待ちください。

4. 設定画面に戻ります。。

   画面右上の X をクリックして、画面を閉じてください。

   ※エラー画面が表示されたときも同様に画面を閉じてください。

以上で完了です。

6.5.9 表示言語の設定

設定画面の言語を切り替えるときは、以下の設定を行ってください。

1. (1)設定画面右上のプルダウンメニューから「日本語」または「英語」を選びます。
   (2)[適用]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 言語が切り替わります。

6.6 ステータス関連

ここでは、ステータス関連の表示方法を説明します。

6.6.1 ステータス

1. [ステータス]をクリックします。

2. システム情報を確認します。

(1) Auto モード

現在のモード、システム稼動時間、バージョン、無線の構成などの情報を見ることができます。

ステータス

現在のステータスを表示します。

モード

動作モード	ルータモード ▼ 適用

Autoモードの場合、WAN回線を判別し、ルータモードまたはAPモードで動作します。
ルータモードの場合、WAN回線に関係なく、常にルータモードで動作します。

システム

稼働時間	0日0時7分34秒
ファームウェアバージョン	MZK_MF300D_b15
ファームウェア作成日時	2011/08/05 13:44:13

無線LAN1の構成

動作モード	AP
無線モード	5 GHz (A+N)
SSID	ap-pcA-●●●●●●
チャンネル	36
暗号化方式	WPA2
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

無線LAN1 仮想AP1の構成

無線モード	5 GHz (A+N)
SSID	ap-tvA-●●●●●●
暗号化方式	無効
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

無線LAN2の構成

動作モード	AP
無線モード	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	ap-pcG-●●●●●●
チャンネル	6
暗号化方式	WPA2
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

無線LAN2 仮想AP1の構成

無線モード	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	ap-gameG-●●●●●●
暗号化方式	無効
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

TCP/IP の構成

回線種別	固定IP
IPアドレス	192.168.111.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DHCPサーバ	自動
MACアドレス	[illegible]

WAN の構成

回線種別	DHCPサーバからIPアドレス取得中です...
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
MACアドレス	[illegible]

項目名	動作
動作モード	「Auto モード」または「ルータモード」を設定します。 ・「Auto モード」 　WAN 回線を自動判別し、ルータモードまたはアクセスポイントモードで動作します。 ・「ルータモード」 　WAN 回線に関係なく常にルータモードで操作します。 ※モードの変更方法は、「6.1 モードを変更する」を参照ください。 ※初期設定：「Auto モード」

（2）AP モード

アクセスポイントモードのネットワーク、ローカルネットワークの情報を見ることができます。

ステータス

現在のステータスを表示します。

システム	
稼働時間	0日0時1分42秒
ファームウェアバージョン	MZK_MF300D_b15
ファームウェア作成日時	2011/08/05 13:44:13

無線LAN1の構成	
動作モード	AP
無線モード	5 GHz (A+N)
SSID	ap-pcA-●●●●●●
チャンネル	36
暗号化方式	WPA2
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

無線LAN1 仮想AP1の構成	
無線モード	5 GHz (A+N)
SSID	ap-tvA-●●●●●●
暗号化方式	無効
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

無線LAN2の構成	
動作モード	AP
無線モード	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	ap-pcG-●●●●●●
チャンネル	10
暗号化方式	WPA2
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

無線LAN2 仮想AP1の構成	
無線モード	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	ap-gameG-●●●●●●
暗号化方式	無効
BSSID	[illegible]
接続中の機器数	0

TCP/IP の構成	
回線種別	固定IP
IPアドレス	192.168.1.250
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.250
DHCPサーバ	自動
MACアドレス	[illegible]

(3)コンバータモード

コンバータモードのネットワーク、ローカルネットワークの情報を見ることができます。

ステータス

現在のステータスを表示します。

システム	
稼働時間	0日0時6分24秒
ファームウェアバージョン	MZK_MF300D_b15
ファームウェア作成日時	2011/08/05 13:44:13

無線LAN1の構成	
動作モード	インフラストラクチャ
無線モード	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	ap-pcG-●●●●●●
チャンネル	12
暗号化方式	WPA2
BSSID	00:00:00:00:00:00
状態	検索中

TCP/IP の構成	
回線種別	固定IP
IPアドレス	192.168.1.249
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.249
DHCPサーバ	自動
MACアドレス	[illegible]

第 7 章 困ったときは

7.1 トラブルシューティング

本製品が正常に動作しないときは、販売店または弊社テクニカルサポートに連絡する前に、本章に記載されているトラブルシューティングをご確認ください。
また、本紙に記載されていない困ったときの情報は、FAQ サイト（http://faq.planex.co.jp/）を参照してください。

症状	可能な解決策
電源が入らない	本製品の電源がはいらないときは、次の内容を確認してください。 ・ AC アダプタ、または USB 電源ケーブルが正しく接続されていますか？ ・ 同梱品以外の他製品の AC アダプタ、USB ケーブルを使用していませんか？ ・ 延長コードやタップを使用しないで電源をつないで見てください。 ・ 他のコンセント差込口に変えてみてください。 ・ 正しい電源、電圧で使用していますか？ それでも改善されないときは、恐れ入りますが、本製品の不具合の可能性がございますので、同梱の「はじめにお読みください」裏面記載の保証規定を必ずご確認頂き、ご同意のうえで、修理を依頼してください。 ★同意頂けない場合は、ご購入の販売店にご返却ください。 但し、お客様の過失で製品にキズ、欠損、欠品などがある場合にはご返却できません。
設定画面にログインできない	設定画面にログインできないときは、次の内容を確認してください。 ・ セキュリティソフトウェアをご利用中の場合は、一時的に停止させていただき、再度お試しください。本製品の設定が終了しましたら、設定を元に戻してください。無効にする方法につきましては、セキュリティソフトの取扱説明書などをご確認ください。 ・ 設定するパソコンの IP アドレスが「自動取得」になっている必要があります。IP アドレスを手動で設定している場合は、「自動取得」に設定後、お試しください。 ・ 本製品のモード切替スイッチが「Auto」側に設定されているか確認してください。（コンバータとしてご使用のときは、「Converter」側に設定されているか確認してください。 ・ WEB ブラウザにプロキシサーバーの設定をしていなませんか？ ・ WEB ブラウザでセキュリティを高く設定していなませんか？ それでも改善されないときは、お手数ですが本製品を初期化していただき、改めてお試しください。 ⇒初期化の方法は、「7.2 初期化の方法」を参照してください。

インターネットに接続できない	インターネットに接続できないときは、次の内容を確認してください。 ・　設定後、すぐにはつながらない場合があります。2～3分程お待ちいただき、再度お試しください。 ・　設定するパソコンのIPアドレスが「自動取得」になっている必要があります。IPアドレスを手動で設定している場合は、「自動取得」に設定後、お試しください。 ※設定方法は「7.3.1　自動設定」を参照してください。 ・　すべての機器の電源をOFFにして、60分ほどそのままの状態にして改善するかお試しください。 ・　IPアドレスでホームページにアクセスできるか。 ※ブラウザのアドレスに「http://210.197.79.10」と入力して<Enter>キーを押して、弊社（プラネックス）のホームページが表示されるか確認してください。 ・　セキュリティソフトウェアをご利用中の場合は、一時的に停止させていただき、再度お試しください。本製品の設定が終了しましたら、設定を元に戻してください。無効にする方法につきましては、セキュリティソフトの取扱説明書などをご確認ください。 それでも改善されないときは、本製品を初期化後、再度インターネットの設定行ってください。 ⇒初期化の方法は、「7.2 初期化の方法」を参照してください。
無線LANがつながらない	無線LANがつながらないときは、次の内容を確認してください。 ・　本製品と無線 LAN 子機との間に距離がある場合や、障害物がある場合は、障害物がない所で、本製品に近づけて、再度接続をお試しください。 ・　電子レンジや他通信機器の電磁波によって、無線通信が妨害される恐れがあります。無線通信は電子レンジや他通信機器から離れて接続してください。 ・　パソコンを再起動してください。 ・　本製品のWireless/WPSランプ（LEDランプ）は有効になっていますか？ ・　無線LANアダプタが搭載のパソコンで、無線LANのスイッチがオフになっていないませんか？ ・　ワイヤレスネットワークのIPアドレスが自動取得になっていますか？ ・　無線LAN子機に設定されているSSIDおよび無線LANセキュリティ設定は本製品と同じになっていますか？ ・　本製品の無線チャンネルを変更して改善されますか？ それでも改善されないときは、本製品を初期化後、再度お試しください。 ⇒初期化の方法は、「7.2 初期化の方法」を参照してください。

7.2 初期化の方法.

注意：初期化すると本製品の設定内容がすべて消去されます。
初期化する前に必要な情報はメモなどに控えてください。

1. 本製品の電源がオンになっていることを確認します。
2. 本製品側面のリセットボタンを 5 秒以上長押しして、「Power」ランプが消灯→点滅したら、リセットボタンから離します。
3. しばらくそのままお待ちいただき、本製品が再起動したら初期化の完了です。

初期化が完了したら、付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」表面の「STEP 2」の手順から設定を行ってください。

7.3 IP アドレスの設定.

7.3.1 自動設定

パソコンの IP アドレスを DHCP サーバから取得する方法に設定します。
お使いの OS を参照してください。

- Windows 7 のとき…………………………………「7.3.1.1 Windows 7」
- Windows Vista のとき……………………………「7.3.1.2 Windows Vista」
- Windows XP のとき………………………………「7.3.1.3 Windows XP」
- Mac OS X のとき…………………………………「7.3.1.4 Mac OS X」

7.3.2 手動設定

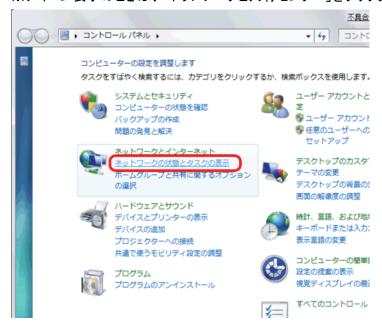
パソコンの IP アドレスを手動で設定します。
お使いの OS を参照してください。

- Windows 7 のとき…………………………………「7.3.2.1 Windows 7」
- Windows Vista のとき……………………………「7.3.2.2 Windows Vista」
- Windows XP のとき………………………………「7.3.2.3 Windows XP」
- Mac OS X のとき…………………………………「7.3.2.4 Mac OS X」

7.3.1 自動設定

7.3.1.1 Windows 7

1. (1)「スタート」ボタンをクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
   ※アイコン表示のときは、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「アダプターの設定の変更」をクリックします。

4. (1)「ローカルエリア接続」を右クリックします。

(2)「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選びます。

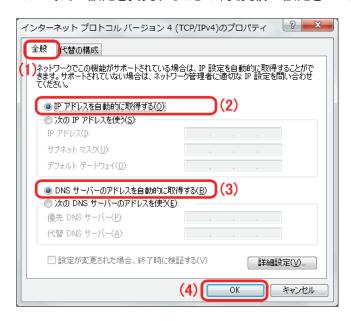
(2) [プロパティ]をクリックします。

6. (1)「全般」タブをクリックします。

(2)「IP アドレスを自動的に取得する」を選びます。

(3)「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選びます。

(4)[OK]をクリックします。

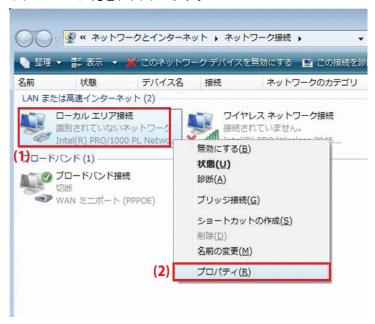
※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

7. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

7.3.1.2 Windows Vista

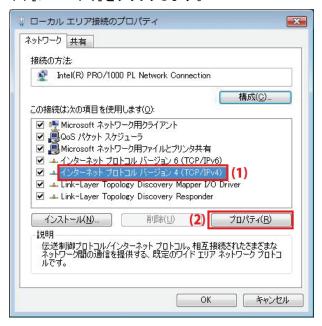
1. (1)「スタート」ボタンをクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
   ※クラシック表示画面の場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

4. (1)「ローカルエリア接続」を右クリックします。
(2)「プロパティ」をクリックします。

5. 「ユーザーアカウント制御」が表示されます。
[続行]をクリックします。

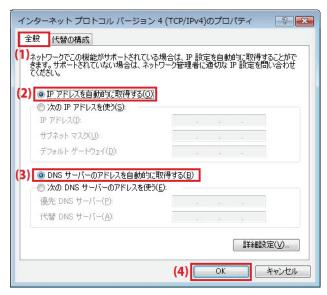
6. (1)「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選びます。

(2)[プロパティ]をクリックします。

7. (1)「次の IP アドレスを使う」をクリックします。

(2)「IP アドレスを自動的に取得する」を選びます。

(3)「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選びます。

(4)[OK]をクリックします。

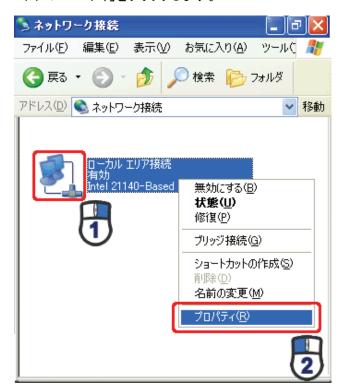
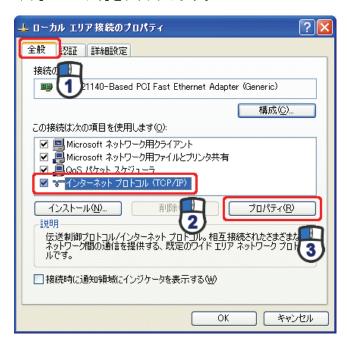
※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

8. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

7.3.1.3 Windows XP

1. (1)「スタート」をクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

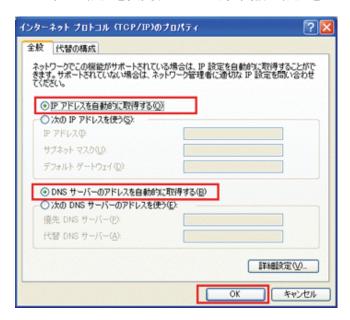
2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続」をクリックします。

4. (1)「ローカル エリア接続」を右クリックします。
(2)「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「全般」タブをクリックします。
(2)「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を選びます。
(3)[プロパティ]をクリックします。

6. （1）「IP アドレスを自動的に取得する」にチェックを入れます。

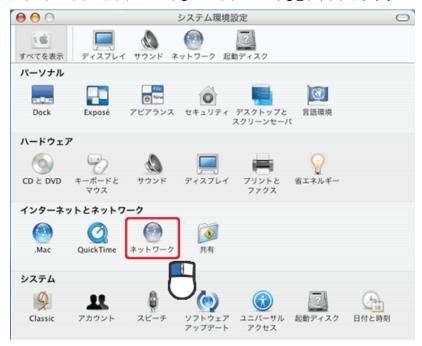
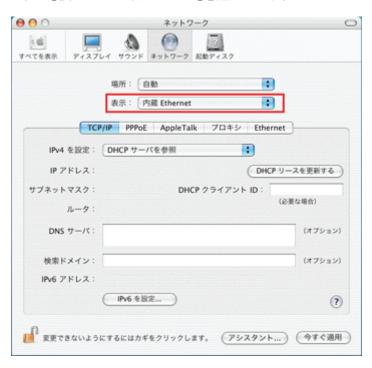
（2）「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」にチェックを入れます。

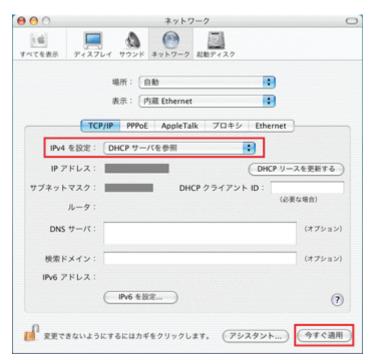
（3） [OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

7. [閉じる]をクリックします。

7.3.1.4 Mac OS X

1. (1)「アップルメニュー」をクリックします。
   (2)「システム環境設定」をクリックします。

2. 「インターネットとネットワーク」の 「ネットワーク」をクリックします。

3. 「ネットワーク」の画面が表示されます。
「表示」欄から「(内蔵)Ethernet」を選らびます。

※[DHCP サーバを参照]が表示されていないときは、[PPPoE]タブをクリックし、「PPPoE を使って接続する」のチェックをオフにします。

4. 「TCP/IP」タブの「IPv4 を設定」欄から「DHCP サーバを参照」を選択します。

5. [今すぐ適用]をクリックします。

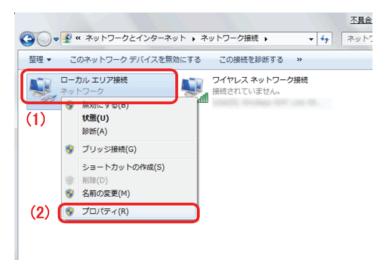
7.3.2　手動設定

7.3.2.1　Windows 7

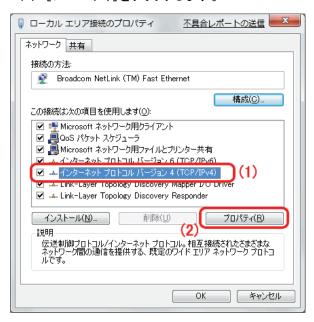
1. (1)「スタート」ボタンをクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
   ※アイコン表示のときは、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「アダプターの設定の変更」をクリックします。

4. (1)「ローカルエリア接続」を右クリックします。

(2)「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選びます。

(2) [プロパティ]をクリックします。

6. (1)「次の IP アドレスを使う」を選びます。

(2)「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」(「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨)と入力します※。

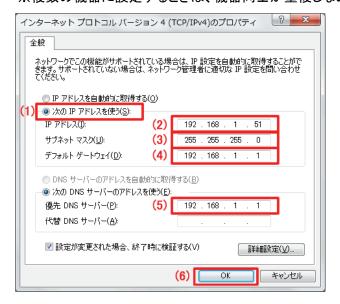
(3)「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。

(4)「デフォルトゲートウェイ」に「192.168.1.1」と入力します。

(5)「優先 DNS サーバー」に「192.168.1.1」と入力します。

(6) [OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

7. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

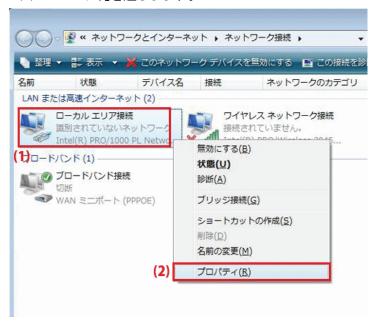
7.3.2.2 Windows Vista

1. (1)「スタート」ボタンをクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
   ※クラシック表示画面の場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

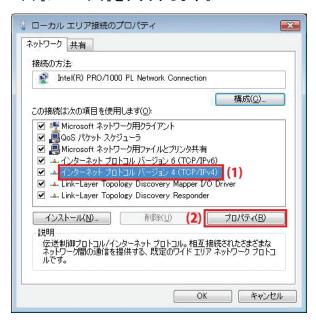
3. 「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

4. (1)「ローカルエリア接続」を右クリックしてます。

(2)「プロパティ」を選らびます。

5. 「ユーザーアカウント制御」が表示されます。

[続行]をクリックします。

6. (1)「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選びます。

(2)[プロパティ]をクリックします。

7. (1)「次の IP アドレスを使う」をクリックします。

(2)「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」(「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨)と入力します※。

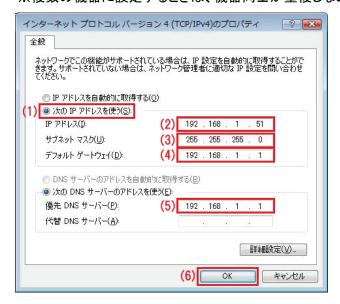
(3)「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。

(4)「デフォルトゲートウェイ」に「192.168.1.1」と入力します。

(5)「優先 DNS サーバー」に「192.168.1.1」と入力します。

(6)[OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

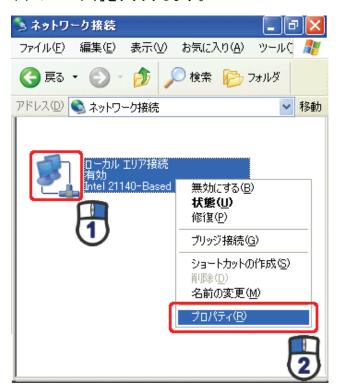
※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

8. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

7.3.2.3 Windows XP

1. (1)「スタート」をクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

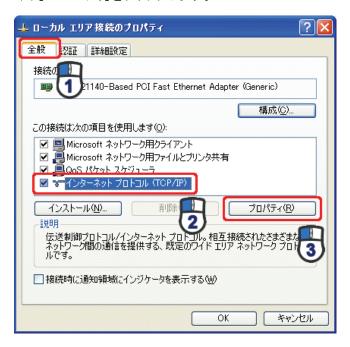
2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続」をクリックします。

4. (1)「ローカル エリア接続」を右クリックします。

(2)「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「全般」タブをクリックします。

(2)「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を選びます。

(3)[プロパティ]をクリックします。

6. (1)「次の IP アドレスを使う」をクリックします。

(2)「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」(「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨)と入力します ※。

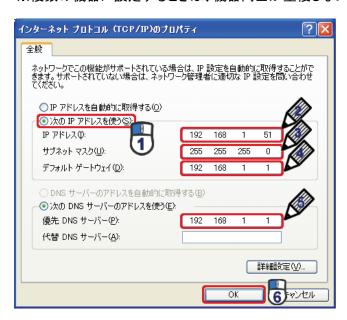
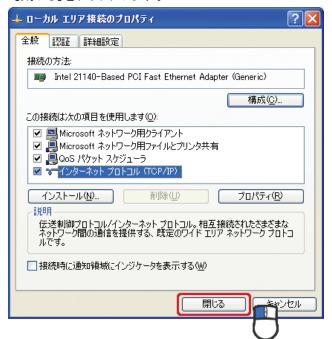
(3)「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。

(4)「デフォルトゲートウェイ」に「192.168.1.1」と入力します。

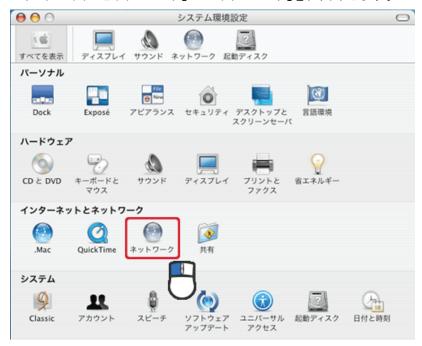
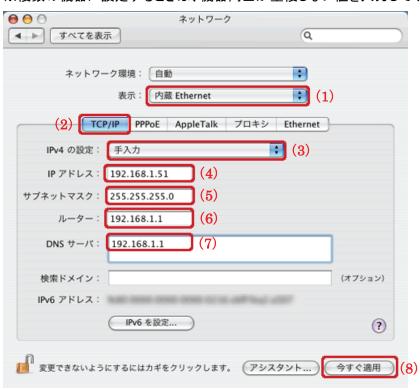
(5)「優先 DNS サーバー」に「192.168.1.1」と入力します。

(6)[OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

7. [閉じる]をクリックします。

7.3.2.4 Mac OS X

1. (1)「アップルメニュー」をクリックします。
   (2)システム環境設定」をクリックします。

2. 「インターネットとネットワーク」の 「ネットワーク」をクリックします。

3. （1）「表示」から「内蔵 Ethernet」を選びます。
（2）「TCP/IP」タブをクリックします。
（3）「IPv4 を設定」から「手入力」を選びます。
（4）「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」（「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨）と入力します※。
（5）「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。
（6）「ルーター」に「192.168.1.1」と入力します。
（7）「DNS サーバ」に「192.168.1.1」と入力します。
（8）［今すぐ適用］をクリックします。
※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。
※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

4. ［適用］をクリックします。

第 8 章:製品仕様

型番	MZK-MF300D
無線部仕様	
対応規格	IEEE802.11n、IEEE802.11a、IEEE802.11g、IEEE802.11b
周波数帯域 チャンネル	[W52] 5.2GHz 帯(5,180～5,240MHz) : 36/40/44/48ch [W53] 5.3GHz 帯(5,260～5,320MHz) : 52/56/60/64ch [W56] 5.6GHz 帯(5,500～5,700MHz) : 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch 2.4GHz 帯(2,412 ～2,472MHz) : 1～13ch
伝送速度	IEEE802.11n :最大 300Mbps(40MHz) IEEE802.11a :54, 48, 36, 24, 18, 12, 9, 6Mbps IEEE802.11g :54, 48, 36, 24, 18, 12, 9, 6Mbps IEEE802.11b :11, 5.5, 2, 1Mbps
伝送方式	IEEE802.11n :直交波周波数分割多重変調(OFDM 方式) IEEE802.11a :直交波周波数分割多重変調(OFDM 方式) IEEE802.11g :直交波周波数分割多重変調(OFDM 方式) IEEE802.11b :直接拡散型スペクトラム拡散(DSSS 方式)
アンテナ利得	5GHz:4.6dBi(Peak)、2.4GHz:2.7dBi(Peak)
アンテナ	内蔵アンテナ 2 本(2T2R)
アクセス方式	インフラストラクチャモード
自動無線設定機能	WPS
WDS	WDS ブリッジ
セキュリティ	WPA2-PSK(暗号化方式:AES) WPA-PSK(暗号化方式:AES) WEP(キー長 :64bit/128bit、キーフォーマット :ASCII/Hex) 無効(暗号なし)
有線部仕様	
対応規格	IEEE802.3u(100BASE-TX) IEEE802.3i(10BASE-T)
インターフェース	RJ-45 ポート×2(WAN×1、LAN×1)、USB ポート
伝送速度	100/10Mbps(オートネゴシエーション)
ネットワークケーブル	100BASE-TX :カテゴリ 5 以上 10BASE-T :カテゴリ 3 以上

ソフトウェア仕様	
動作モード	ルータ、アクセスポイント、コンバータ
対応 WAN 回線	FTTH、ADSL、VDSL、CATV
WAN 回線自動判別	Auto モード搭載
WAN 設定	IP アドレス自動取得(DHCP クライアント) 固定 IP アドレス(手動設定) PPPoE クライアント設定 PPPoE マルチセッション(最大 2 セッション) Unnumbered PPPoE
LAN 設定	固定 IP アドレス(手動設定) DHCP サーバ(有効/無効)
無線利用方式	IEEE802.11n/a と 11n/g/b は同時利用可能
ルーティング機能	スタティックルーティング、ダイナミックルーティング(RIP1/RIP2)
アドレス変換	NAPT(IP マスカレード)
ローカルサーバ機能	DMZ、仮想サーバ
セキュリティ	URL フィルタ、MAC フィルタ、ポートフィルタ、IP フィルタ
IPv6 関連	IPv6 ブリッジ機能(IPv6 パススルー)
VPN 関連	IPsec パススルー、PPTP パススルー、L2TP パススルー
ダイナミック DNS	CyberGate-DDNS-、DynDNS
省エネ設定	EEE、ActiveECO
ハードウェア仕様	
ハードウェアスイッチ	WPS ボタン、Reset ボタン、モード切り換えスイッチ(Auto/AP/Converter)
LED	Power、WPS、Wireless
消費電力	最大:3.1W 待機:1.7W
電源	DC5V　1A
外形寸法	約 76(W)×29(H)×66(D)mm
重量	約 60g
動作時環境	温度　:0～40℃ 湿度　:10～90%(結露なきこと)
保存時環境	温度　:-20～75℃ 湿度　:5～95%(結露なきこと)

その他	
ログ機能	システムログ
管理機能	リモート管理
対応 OS	Windows 7(32bit/64bit)/Vista(32bit/64bit)/XP Mac OS X 10.6/10.5/10.4(CPU :Intel/PowerPC support)
各種設定方法	WEB ブラウザ
保証期間	1 年間

■注意事項

※WEB ブラウザによる設定の際に、一部のブラウザでは正常に表示できない場合があります。

※WPA/WPA2 を利用するためには、接続する Wi-Fi 機器も WPA または WPA2 に対応している必要があります。

※WPS を利用するためには、接続する Wi-Fi 機器も WPS に対応している必要があります。

※IEEE802.11n/a と IEEE802.11n/g/b を同時利用した場合、それぞれの伝送速度は最大 150Mbps になります。

※表示の数値は、Wi-Fi 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

※IEEE802.11a W52/W53 の屋外での利用は禁じられています。

※製品仕様は予告無く変更する場合があります。あらかじめご了承ください。最新情報は、弊社ホームページ（http://www.planex.co.jp）を参照ください。

第 9 章 お問合せ先

●サポート Q&A 情報（FAQ、よくある質問と答え）
ご質問の前に、まずサポート Q&A 情報をご覧ください。
お問い合わせの情報が掲載されているかお確かめください。
http://faq.planex.co.jp/

●オンラインマニュアル
最新版のマニュアルを参照できます。
http://www.planex.co.jp/support/download/index_manual.shtml

●技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ
製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

＜お問い合わせフォーム＞
http://www.planex.co.jp/support/techform/
受付：24 時間

＜サポートダイヤル＞
0570-064-707
受付：月～金曜日、10 ～ 12 時、13 ～ 17 時（※祝祭日および弊社指定の休業日を除く）

＜ FAX ＞
0570-088-194
受付：24 時間

●弊社製品の追加購入〈PLANEX DIRECT〉
弊社製品のご購入は、販売店様または PLANEX DIRECT まで。
ケーブル 1 本からレイヤ 3 スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。
http://direct.planex.co.jp/

●製品に関するお問い合わせ〈ご質問/ お見積もりフォーム〉

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。

ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

http://www.planex.co.jp/lan.shtml

●その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

http://www.planex.co.jp/

上記内容は 2011 年 9 月現在の情報です。

内容は予告なく変更または削除される場合があります。ご了承ください。

第 10 章 索引

●プラネックスコミュニケーションズ、PLANEX COMMUNICATIONS は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。

●Microsoft および Windows は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

●Mac は、Apple Inc.の登録商標です。

●iPhone は Apple Inc.の商標です。iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

●ニンテンドーDS・ニンテンドーDS Lite・Wii・3DS は、任天堂の登録商標です。

●ニンテンドーDSi は、任天堂の商標です。

●ニンテンドーWi-Fi コネクション・Nintendo Wi-Fi Connection は、任天堂の商標です。

●PSP、PS3 は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

●GALAXY Tab は、サムスン電子株式会社の登録商標です。

●Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の認証ロゴマークです。

●その他、記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

●ご注意:ご使用の際は必ず商品に添付された取扱説明書をお読みになり、正しく安全にご使用ください。